はじめに

近年、子供たちを取り巻く社会状況の急激な変化により、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関連する諸課題、新たな感染症など、子供たちの心身に影響を与える様々な健康課題が生じています。子供たちがこのような様々な課題の解決を図るためには、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことを目指した学校における健康教育を推進することが重要です。

特に、生涯のうち国民の二人に一人が罹患すると推計されているがんは、国民の生命と健康にとって重大な課題となっています。がんをめぐるこうした状況を踏まえると、学校における健康教育においてがんを取り上げた教育を推進することは、健康教育を推進する上で大変意義深いものです。

がん教育は、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、ともに生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育です。学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校においては、新たにがんについても取り扱うことが明記されたことにより、現行の学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発が必要となっています。また、学校教育を通じて、児童生徒が、がんについて学ぶことにより、健康について関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにするとともに、がん専門医をはじめとする医療従事者やがん経験者等の外部講師と連携した取組を実施することで、学校におけるがん教育をさらに効果的に進めることができます。

このような中、埼玉県教育委員会では平成２７年度から文部科学省の委託事業を受け続けており、令和６年度は埼玉県「がん教育等外部講師連携支援事業」を実施しました。

具体的な取組としては、学識経験者、がん専門医、がん経験者を含めた「がん教育推進連絡協議会」を立ち上げ、本県のがん教育の推進に向けた指導・助言をいただきながら、教職員や外部講師関係者を対象とした「がん教育指導者研修会」や小学校・中学校・高等学校のモデル校における「がん教育授業研究会」を開催しました。

本報告書は、これらの取組の概要や成果等についてまとめております。掲載している資料等をすべての学校において活用していただき、教職員の共通理解の下、家庭や地域の専門機関等と連携を図りながら、さらなるがん教育の充実が図られることを期待しております。

結びに、本事業の円滑な推進に御尽力いただきました、各関係機関、団体の皆様、さらには授業を御提供くださいました所沢市教育委員会、所沢市立椿峰小学校、北本市教育委員会、北本市立西中学校、県立杉戸高等学校の皆様に深く感謝申し上げ、御礼とさせていただきます。

令和７年２月

埼玉県教育局県立学校部保健体育課長
荻原　篤大

目　　次

Ⅰ　令和６年度　埼玉県「がん教育等外部講師連携支援事業」

１　趣旨 …… 1
２　事業内容 …… 1
３　実施内容 …… 1
４　他部局との連携 …… 4
５　医療機関との連携 …… 4
６　事業の成果 …… 4
７　課題（今後の方向性を含む）…… 6
８　令和７年度の事業予定について …… 6

Ⅱ　令和６年度　埼玉県がん教育指導者研修会 …… 8

Ⅲ　令和６年度　埼玉県「がん教育」授業研究会 …… 21

所沢市立椿峰小学校 …… 22
北本市立西中学校 …… 47
県立杉戸高等学校 …… 62

Ⅳ　令和６年度　埼玉県がん教育推進連絡協議会

がん教育推進連絡協議会設置要綱 …… 80
令和６年度埼玉県がん教育推進計画 …… 82
がん教育推進連絡協議会名簿 …… 83

Ⅰ　令和６年度　埼玉県「がん教育等外部講師連携支援事業」について

１　趣　旨

平成 28 年 12 月に改正されたがん対策基本法第 23 条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というがんに関する教育の推進についての文言が新たに記載された。また、政府が策定するがん対策推進基本計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」ことを目標としている。さらに、学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の保健体育科において、がんについても取り扱うこととされた。

このような状況を踏まえ、現行の学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向けた取組の充実及び外部講師の活用を図るための体制を整備していく必要がある。

そこで、本県では、学校におけるがん教育の推進を図るため、文部科学省委託「外部講師を活用したがん教育等現代的な課題理解増進事業」を受け、「がん教育等外部講師連携支援事業」を実施する。

本事業の実施により、子供たちが健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成するとともに、がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識の深化を図る。

２　事業内容

（１）がん教育推進連絡協議会の開催
（２）がん教育指導者研修会の開催
（３）がん教育授業研究会の開催

３　実施内容

（１）がん教育推進連絡協議会について（年２回開催）

がん教育の推進を図るため、学識経験者や医療関係者等で構成される「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育推進計画」の作成等に対し指導・助言を行うとともに、事業成果の検証を行う。

ア　第１回協議会（がん教育推進計画の検討・決定）
日時　令和６年７月９日（火）午後２時～　オンライン（知事公館より配信）
○「がん教育推進連絡協議会」について
○「がん教育指導者研修会」について
○「がん教育授業研究会」について
○外部講師の活用について

イ　第２回協議会（がん教育推進計画の事業報告・成果の検証）
日時　令和７年１月１５日（水）午後２時～　オンライン（衛生会館より配信）
○「がん教育指導者研修会」について
○「がん教育授業研究会」について
○　成果の検証

※　がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会等へ配布するとともに、保健体育課（学校保健に関すること）のホームページに掲載

（２）がん教育指導者研修会について

教職員及び外部講師関係者等を対象に、がんの正しい知識や理解を図ること及び指導方法等を充実させることを目的として「がん教育指導者研修会」を開催する。がん教育を実施する上での留意事項等の行政説明、前年度の授業研究実践者による発表、有識者による講演、質疑等を通して、教職員及び外部講師関係者等の資質向上を図る。

ア　日　時　　令和６年８月２３日（金）～９月２０日（金）

イ　方　法　　動画配信（限定公開）

ウ　対　象　　県内公立小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教職員、市町村教育委員会指導主事、外部講師関係者

エ　内　容

（ア）行政説明　県教育局県立学校部保健体育課

（イ）実践発表　令和５年度モデル校

小学校実践校　　熊谷市立太田小学校　　八木　孝大　教諭

中学校実践校　　越生町立越生中学校　　髙橋　寿弥　教諭

高等学校実践校　県立吹上秋桜高等学校　藤井　将貴　教諭

（ウ）外部講師指導事例　　第６学年 熊谷市立太田小学校 授業研究会後の事後学習

埼玉医科大学総合医療センター　教授　儀賀　理暁　氏

（エ）講　演　「学校と外部講師が効果的に連携したがん教育の推進」

講師　　埼玉医科大学総合医療センター　教授　儀賀　理暁　氏

（３）がん教育授業研究会について

小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を目的とした「がん教育授業研究会」を開催する。

内容の取扱いについては、各学校種の発達の段階に応じたものとし、中学校及び高等学校においては、学習指導要領（保健体育科）に対応したものを基本とする。

※指導内容　　ア　がんとは、がんの要因

イ　がんの種類とその経過

ウ　我が国のがんの状況

エ　がんの予防

オ　がんの早期発見・がん検診

カ　がんの治療法

キ　がん治療における緩和ケア

ク　がん患者の生活の質

ケ　がん患者への理解と共生

※研究協議テーマ　「がん教育の充実を図るための工夫について」

ア　小学校授業研究会

（ア）　日　時　　令和６年１０月２４日（木）

（イ）　参加者　　西部教育事務所管内小学校の教職員、県内特別支援学校

（小学部設置）の教職員、所沢市立中学校の教職員、市町村教育委員会の指導主事、埼玉県がん教育外部講師関係者等

（ウ）　会　場　　所沢市立椿峰小学校

（エ）　授業者　　池田　哲将　教諭（T1）・上　美紗　養護教諭（T2）

（オ）　単　元　　特別活動「健康な生活とかけがえのない命」
～健康な生活を長く続けよう～
学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

イ　中学校授業研究会

（ア）　日　時　　令和６年１１月５日（火）

（イ）　参加者　　南部教育事務所管内の公立中学校の教職員、北本市立小学校の教職員、公立特別支援学校（中学部設置）の教職員、市町村教育委員会の指導主事、埼玉県がん教育外部講師関係者

（ウ）　会　場　　北本市立西中学校

（エ）　授業者　　富岡　亜祐美　教諭(T1)　　小川　真由美　養護教諭(T2)
柳瀬　浩美　　教諭(T3)

（オ）　単　元　　保健体育科（保健分野）
（１）健康な生活と疾病の予防
（ウ）生活習慣病などの予防

ウ　高等学校授業研究会

（ア）　日　時　　令和６年１０月３０日（水）

（イ）　参加者　　県内公立高等学校・特別支援学校の教職員、埼玉県がん教育外部講師関係者

（ウ）　会　場　　県立杉戸高等学校

（エ）　授業者　　大塚　真澄　教諭

（オ）　単　元　　保健体育科（科目保健）
（１）現代社会と健康
（ウ）生活習慣病などの予防と回復

（４）効果的な指導方法の実践研究

発達の段階に応じたがんに関する効果的な指導を行うための指導方法の実践研究

・「がん教育」における小・中・高の系統的な保健教育の実践研究を行う。
【構造化された授業の提案】
・学習内容の明確化（１時間に何を学ばせるのか、何を学んだのかが明らかな授業）
・基本的・基礎的な内容を理解させるための学習活動の工夫
・主体的に学習に取り組ませるための教材の工夫
・外部講師を活用した指導方法の工夫（事前・授業研究会当日・事後のいずれかまたは複数）

4　他部局との連携

保健医療部疾病対策課と連携を図り、外部講師の積極的な活用へ向けた取組を行う。

（1）「埼玉県がん教育外部講師リスト」と「がん教育打ち合わせシート」を県内公立小・中・義務教育・高・特別支援学校に周知し、学校が直接、外部講師に指導依頼を行うことができるようにした。

（2）がん教育における外部講師の活用に係る事業として、がん教育外部講師派遣事業（疾病対策課事業）を県内公立小・中・義務教育・高・特別支援学校に周知し、外部講師の活用を促進した。

5　医療機関との連携

埼玉医科大学総合医療センター主催「ＳＭＣがん教育セミナー」の後援

6　事業の成果

学校におけるがん教育の推進を図るためには、新学習指導要領に対応したがん教育の確実な実施に向けた取組の充実及び外部講師の活用を図るための体制の整備などが必要であることから、学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育推進計画」の作成等に対し指導・助言をいただいた。策定した計画に基づく各種の取組を実施することにより、学校における効果的ながん教育の在り方などについて、県内への啓発を図ることができた。

（1）「がん教育」指導者研修会

ア　がん教育に携わる教職員及び外部講師等を対象に、がんの正しい知識や理解を深めること、及び学校におけるがん教育の指導の充実を図るための研修会を実施したことにより、がん教育の必要性の理解が進むとともに、実践事例や指導教材等の普及啓発ができた。

イ　行政説明において、学校におけるがん教育の定義や目標、及び外部講師と連携したがん教育の在り方や、配慮事項等について改めて確認するなど、学校におけるがん教育の方向性を示すことができた。また、県立久喜図書館から、図書館を活用したがん情報の入手方法について案内するなど有意義な情報を提供した。

ウ　実践発表において、昨年度のモデル校の授業者から、がん教育を通じて目指す子供の姿、授業づくりに向けた思い、実践までに生じた葛藤など、具体的な話を通じて、効果的な指導について普及啓発ができた。また、発達段階に応じた系統的な指導についての理解が進んだ。

エ　外部講師による実際の授業動画（小学校・４５分）を限定配信したことにより、これまで外部講師が行う実際の指導を見たことがなかった教職員が、外部講師を活用することの有効性を深く理解することにつながった。また、外部講師関係者にとっても、自身の指導の幅を広げるきっかけとなった。

オ　埼玉医科大学総合医療センター教授　儀賀　理暁　氏による講演「学校と外部講師が効果的に連携したがん教育の推進」を事前に寄せてもらった参加者からの質問に回答いただくＱ＆Ａ方式にしたことにより、事前打合せや配慮事項を含め、学校と外部講師がどのように連携しながら実際にがん教育を実施しているのかについて、多くの参加者が共通して抱えている疑問を解消できるような講演となった。

（２）授業研究会について

ア　授業検討委員会では、発達の段階に応じた適切な指導、及び教科等横断的な取組、外部講師と連携した取組などについて検討を重ね、授業研究会では、主体的・対話的で深い学びの視点による効果的な指導方法（学習活動）について、提案することができた。また、充実した研究協議を行うことができた。

イ　小・中・高のモデル校全てにおいて、がん経験者やがん患者団体、がん専門医などの外部講師と連携した指導を実施することにより、効果的ながん教育を実施することができた。

ウ　文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。

エ　小学校のモデル校では、体育科・家庭科・道徳科・特別活動の教科等横断的な取組を実施した。公開授業では、特別活動の学級活動（２）において、がんを予防するための生活習慣について、１学期の家庭科で考えた日常生活の計画を見直しながら、健康的な日常生活の計画を児童一人一人が立てることができた。また、「埼玉県がん教育外部講師リスト」を活用し、佐藤晋一氏（株式会社輝き LAND）に外部講師の依頼をし、事前指導と授業研究会当日の授業において、連携した取組を進めることができた。

オ　中学校のモデル校では、保健体育科保健分野において学習した既習事項を活用して、家族にがん検診を勧める場面を想定したロールプレイングを取り入れた授業実践となった。事前学習として、「ピンクリボンの会きたもと」の外部講師をお招きし、講義や体験活動を実施したこともあり、ロールプレイングでは、家族を説得しようとしたり、観察者役の生徒が評価する際に、キーワードを使ったりしている場面が多く見られた。また、授業研究会の実施後に、がん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）による事後指導を実施したりするなど、外部講師を積極的に活用した研究を推進することができた。

カ　高等学校のモデル校では、保健体育科科目保健の授業を実施した。既習事項の確認として、授業開始直後にタブレット端末を使用した小テストを実施し、知識の定着を図った。また、授業者を「がん検診に行こう」と思わせるために、授業者の生活習慣と既習事項を結び付けながら、各自でプレゼンテーション資料を作成し、次時にどのような発表をする予定であるかをグループごとに伝え合った。

　公開授業の前時には、養護教諭も授業に参画し、自らの経験を語るなど、生徒が「がん」をより身近に感じられるよう工夫した。授業研究会の実施後に、がん専門医である儀賀医師（埼玉医科大学総合医療センター）による事後指導を実施したりするなど、外部講師を積極的に活用した研究を推進することができた。

（３）外部機関・外部講師との連携について

ア　授業研究会に関連した指導として、小・中・高の全てのモデル校で外部講師と連携した取組を実施することができ、児童生徒の心に響く効果的ながん教育を推進することができた。

イ　保健医療部疾病対策課と連携した外部講師活用のための取組である「外部講師派遣事業（疾病対策課事業）」では、県内小・中・高・特別支援学校８校に講師を派遣することができた。

ウ　医療機関との連携で、埼玉医科大学総合医療センター　教授　儀賀　理暁　氏が実施する「ＳＭＣがん教育セミナー」について、埼玉県教育委員会が後援し、開催できるよう調整を図っていく。

7　課題（今後の方向性を含む）

（１）各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア　がん教育について明記された学習指導要領は、令和３年度に中学校で全面実施、令和４年度から高等学校で年次進行実施されたことから、各学校種における学習指導要領に対応したがん教育の効果的な実施について引き続き周知していく。また、学習指導要領に位置付けのない小学校についても、がんを題材とした保健教育を実施するよう周知していく。

イ　がん教育の目標を達成するためには、保健の授業でがんに対する正しい知識を身に付け、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について学習していくことが必要である。体育・保健体育の授業を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなる取組を継続して提案していくことが課題である。

ウ　小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。

（２）外部講師の活用について

ア　県保健医療部疾病対策課と連携して各学校に周知した「埼玉県がん教育外部講師リスト」に講師が対応可能な指導内容等、学校が外部講師を選定する際に知りたい情報を追記するなど、リストを更新していく。

イ　外部講師の育成や資質向上のため、学校教職員が多く参加する「がん教育指導者研修会」に外部講師関係者の参加も促していく。

ウ　がん教育授業研究会のモデル校に、外部講師を積極的に活用した授業研究を促していく。また、授業研究会当日に、外部講師関係者の参加を促し、研究協議において、一般参加の教職員と意見交換することにより、外部講師関係者と学校とが直接つながることができるようにしていく。

（３）研修会等の充実と普及・推進

ア　児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、保健体育科教諭や保健主事等への研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。また、参考となる学習指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ　効果的ながん教育の手立ての一つとして、外部講師と連携した取組についての普及啓発も一層推進していく。

ウ　県内各学校でがん教育の取組を実践していくために、地区のバランスを考慮したモデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

8　令和７年度の事業予定について

（１）がん教育推進連絡協議会の実施　（継続）

ア　日　時

（ア）　第１回　協議会　令和７年７月　９日（水）オンライン会議　※予定

（イ）　第２回　協議会　令和８年１月１６日（金）オンライン会議　※予定

イ　内　容

（ア）　本県のがん教育推進に向けた計画の検討

（イ）　本県のがん教育に関する計画の検証・成果報告

（２）がん教育指導者研修会の実施　（継続）

がんに関する指導を行う教職員の資質向上を図るため、研修会を実施していく。

ア　日　時　令和７年８月２２日（金）～９月１８日（木）　動画配信　※予定

イ　内　容

（ア）行政説明

（イ）実践事例発表　（小学校）　所沢市立椿峰小学校

（中学校）　北本市立西中学校

（高等学校）県立杉戸高等学校

（ウ）講演　「学校と外部講師が連携したがん教育について」（仮）

講師　未定

（３）　がん教育授業研究会の実施　（継続）

ア　指導内容について

（ア）がんについて正しく理解することができるようにする。

・保健体育（保健教育）の充実を図る。

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保健教育の授業改善を図る。

（イ）健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校教育全体を通じて指導を行う。

（ウ）授業検討委員会を設置し、発達の段階を踏まえた指導すべき内容について、さらに検討を重ねるとともに、系統性を踏まえた指導計画を作成する。

イ　モデル校について

モデル校の選定については、東西南北の地域のバランスを考慮していく。

【小学校】	上尾市立尾山台小学校
【中学校】	越谷市立武蔵野中学校
【高等学校】	未定

（４）外部講師を活用したがん教育の推進

ア　外部講師を活用したがん教育を実施する学校の割合が増えるよう、「埼玉県がん教育外部講師リスト」や国の委託事業を効果的に活用していく。

イ　がん教育授業研究会において、小・中・高等学校の全ての校種で、公開授業を実施する。その際、外部講師による指導（事前・公開授業当日・事後のいずれか、または複数）を取り入れたモデル授業を実施する。

ウ　外部講師を活用したがん教育の質の向上を目的として、外部講師を活用した授業を見学してもらう取組を実施する。

（５）関係機関との連携

県教育委員会と医療機関が連携した研修会を次年度も計画していく。

ア　文部科学省委託事業を受託し、引き続きがん教育の推進を図っていく。

イ　がん教育推進連絡協議会は、今年度と同様２回開催し、本県のがん教育推進のための計画、方向性、普及の仕方を検討し、各委員から指導・助言をいただくことで推進を図っていく。なお、委員の人選については、各関係団体に依頼する。

Ⅱ　令和６年度　埼玉県がん教育指導者研修会

文部科学省委託事業「外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業」

令和６年度埼玉県がん教育指導者研修会開催要項（動画配信による開催）

１　趣　　旨

日本人の死因の第１位であり国民の生命と健康にとって重大な問題であるがんについて、がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分であり課題であると指摘されている。

この課題の解決のためには、学校におけるがん教育により、子供たちが健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成するとともに、がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識の深化を図ることが必要である。

学校におけるがん教育の充実を図るため、その必要性を十分理解し、学習指導の実践研究、普及啓発が行われるよう研修会を開催する。

２　主　　催　　埼玉県教育委員会

３　開催方法　　埼玉県限定公開セミナー動画チャンネルによる配信

（配信動画の限定公開URLは参加申込者のメールアドレス宛に８月２０日（火）までに別途通知）

４　動画配信期間　　令和６年８月２３日（金）から９月２０日（金）まで

５　参加対象者

（１）公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校において、がん教育を行う教職員（体育科・保健体育科及び特別活動、道徳科等を担当する教職員）

（２）公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に勤務する管理職及び教職員（養護教諭、保健主事等）

（３）市町村教育委員会の指導主事等

（４）学校医等及び外部講師関係者（医療従事者、がん経験者等）

６　内　　容

（１）行政説明　　教育局県立学校部保健体育課　　指導主事　坂上　三四郎

（２）実践事例発表

・小学校指導事例　　第６学年　特別活動「健康な生活とかけがえのない命」
学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の育成
熊谷市立太田小学校　　教諭　八木　孝大

・中学校指導事例　　第２学年　保健体育（保健分野）
「健康な生活と疾病の予防」　（ウ）生活習慣病などの予防
越生町立越生中学校　　教諭　髙橋　寿弥

・高等学校指導事例　第２学年　保健体育（科目保健）
「生涯を通じる健康」　（ア）生涯の各段階における健康
県立吹上秋桜高等学校　　教諭　藤井　将貴

（３）外部講師指導事例　第６学年　熊谷市立太田小学校　授業研究会後の事後学習
埼玉医科大学総合医療センター　緩和医療科
教授　儀賀　理暁　氏

（４）講　演　　「学校と外部講師が効果的に連携したがん教育の推進」
講師　　埼玉医科大学総合医療センター　緩和医療科
教授　儀賀　理暁　氏
※参加申込時に受け付ける質問に回答いただくＱ＆Ａ方式も取り入れた内容を予定

７　受講確認　すべての動画視聴後、別途案内する県の電子申請システムの受講確認票兼アンケートに回答する。
（回答期日：受講終了後から令和６年９月２７日（金）まで）

８　その他

（１）研修当日用意するもの

ア　動画視聴することができる端末等

イ　研修会配付資料及び筆記用具

※埼玉県ＨＰから資料をダウンロードする。資料は令和６年８月１９日（月）頃までに掲載予定。

トップページ＞健康・福祉＞健康＞学校保健に関すること＞各種研修会の配布資料

掲載ＨＰ　https://www.pref.saitama.lg.jp/f2211/kenshushiryou.html

【ＱＲコード】

現在は、資料掲載終了済です。

ウ　保健教育指導参考資料　なるほど！保健の授業づくり－令和４年度発行－
（令和５年３月　埼玉県教育委員会・埼玉県学校保健会）

※各校に１冊配付済みの他、埼玉県ＨＰからもダウンロードできます。印刷する場合は、74～76ページ（Ⅵ 領域ごとの指導内容　２ がん教育）を用意してください。

トップページ＞健康・福祉＞健康＞健康教育

掲載ＨＰ　https://www.pref.saitama.lg.jp/f2211/hokenkyouiku.html

【ＱＲコード】

（２）申込から研修当日までの流れ

別紙「令和６年度埼玉県がん教育指導者研修会申込マニュアル」を参照（掲載省略）

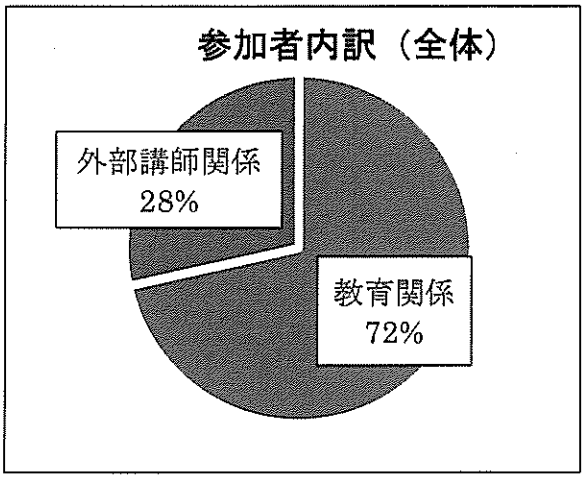
令和６年度がん教育指導者研修会アンケート結果

※受講者１３６名のうち、アンケートに回答した１３０名。

＜参加者について＞

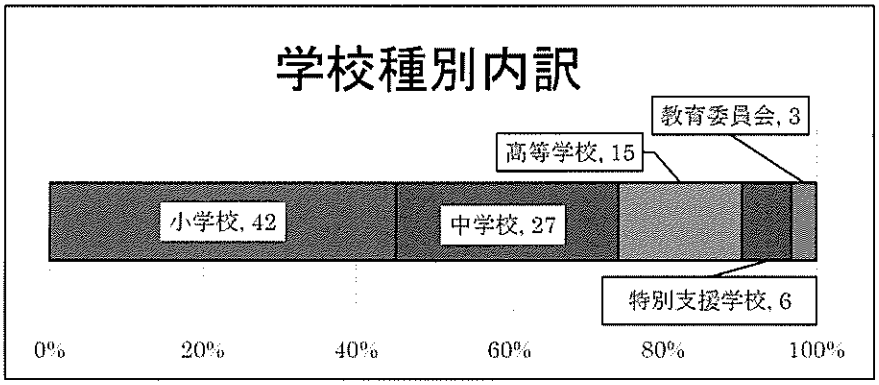
◎参加者内訳（全体）

分類	人数（人）
教育関係	９３
外部講師関係	３７



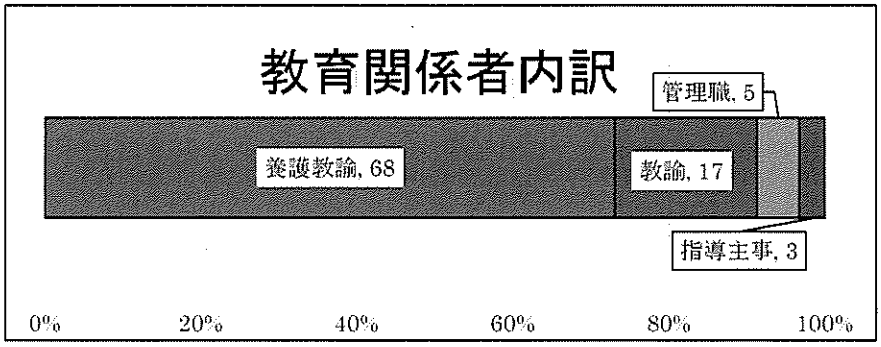
○学校種別内訳

分類	人数（人）
小学校	４２
中学校	２７
高等学校	１５
特別支援学校	６
教育委員会	３



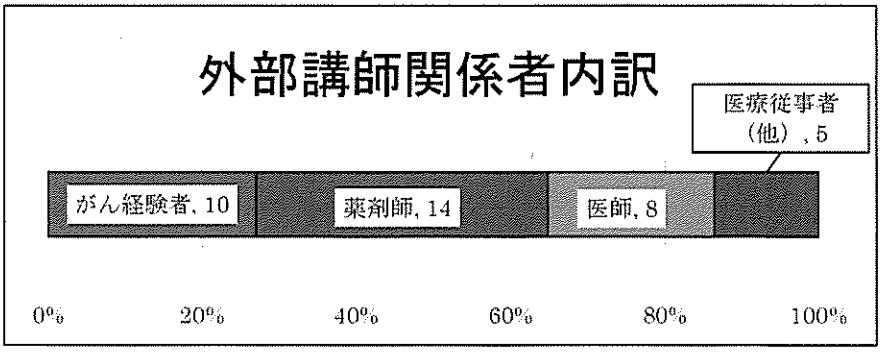
○教育関係者内訳

分類	人数（人）
養護教諭	６８
教諭	１７
管理職	５
指導主事	３



○外部講師関係者内訳

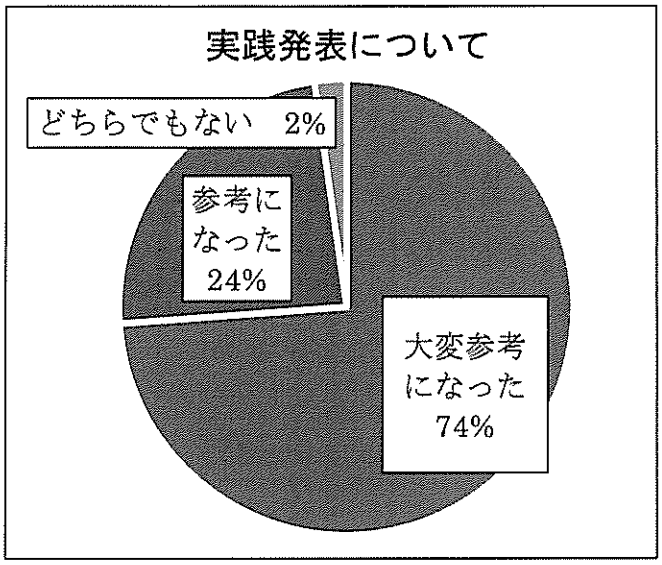
分類	人数（人）
がん経験者	１０
薬剤師	１４
医師	８
医療従事者（他）	５



＜実践発表について＞

◎内訳

分類	人数（人）
大変参考になった	９６
参考になった	３１
どちらでもない	３
参考にならなかった	０



○教育関係者　※一部抜粋

・がんについて、どのように扱えばいいのか不安がありましたが、実践事例を拝見し、このような展開で行うことができるのだということが分かりました。（小学校・教諭）

・発達段階に応じて進めるがん教育の重要性について改めて理解することができた。（小学校・教諭）

・指導計画が工夫され、子どもたちが自分事として考える授業であったと思います。（小学校・校長）

・がん教育は小学校では保健体育の指導要領にはない内容のため、何をどのように（何の教科で）取り上げるかを検討する必要がある。学級活動をはじめ教科横断的に取り組む事例として参考になった。また「食」という児童に身近なところからがん教育につなげる試みも興味深い内容であった。（小学校・養護教諭）

・特に小学校の実践事例発表では、教科を超えたがん教育の取組や仮説に基づいた授業の流れが大変参考になりました。授業前後の児童の意識の変容が素晴らしいと思いました。（小学校・養護教諭）

・「応用、基礎、発展」や「外部講師との連携」「教科横断的な指導」の実践事例を聞くことができ参考になりました。バイキングなど、子供の興味をひく工夫があり、自校でも取り入れたいと思いました。（小学校・養護教諭）

・小学校ではがんについては指導要領で触れるようにするの表記だったので、自校で行う際にどこまで取り扱うか悩んでいましたが、免疫力に着目して食生活の観点から取り扱うことができると実践事例発表を見てとても参考になりました。学校全体で教科横断的に行うには自分の知識をつけることはもちろん、教職員への研修や系統表などでつながりをしっかり意識した指導が必要なのだと勉強になりました。（小学校・養護教諭）

・小学校のがん教育を推進するための手立てが、実践校の発表でより具現化できました。さらに、外部講師、地域連携の重要性がより明確に理解できました。（小学校・養護教諭）

・小学生に対してがんという病気をどのように説明すればいいのか、わかりやすい表現に噛み砕いて伝えるにはどんな工夫ができるのか、とても参考になりました。発達段階に合わせて適切に指導できるよう、計画を立てていきたいと思います。（小学校・養護教諭）

・実践をつくろうとした時に参考になる、丁寧な資料をいただけて有難いです。（小学校・養護教諭）
・太田小学校の実践にたくさんのことを学びました。ねらいを明確にし、多くの教科にてそのねらいに迫った授業が展開されていて、素晴らしかったです。なかなかここまでの実践をすることは難しいですが、がん教育の良さについて学ぶことができました。（小学校・養護教諭）
・初めてがん教育の研修会に参加しました。自らの生活を考える、外部講師の話を聞く、食事の自己選択等、様々な角度から授業をしており、大変参考になりました。（小学校・養護教諭）
・外部講師を招いてのがん教育を行ったことがなかったので、授業の流れや、子供たちの反応の様子を見ることができて、参考になりました。（小学校・養護教諭）
・基礎から応用の順に進めるのではなく、応用から基礎の順に進めることで、子供たちの疑問や関心を引き出し、その後の学習に主体的に取り組む事ができるようになることを学び大変勉強になりました。また、教材を効果的に使用することで、子供たちが課題を自分ごととして捉えられるようになることが分かりました。教科横断的な視点として、保健など直接関係のある教科だけでなく、道徳や総合的な学習の時間、国語など主要な教科とも関連づける事ができ、繋がりを意識した授業作りが大切だと感じました。（小学校・養護教諭）
・がん教育と聞くと、「保健」の授業のみで取り扱うイメージでしたが教科横断的に取り扱うことで、自分ごととしてとらえ生きた知識として身につけることができるとわかりました。また、応用の内容から始めることで、疑問をもち関心を高めた状態で基礎知識を身につけることは有効だと感じました。（小学校・養護教諭）
・小学校年間指導計画を基に、低学年から系統的・横断的に健康と命の大切さを考える、がん教育がすすめられていて素晴らしいと思いました。授業では自分の食生活についての課題をつかみ、具体物を示し実演し、その後各自が自己決定をしていました。身近なものを扱い自分事として捉えられていた授業だったと感じ、とても参考になりました。（小学校・養護教諭）
・なかなかがん教育を実践している授業をうかがう機会は少ないので見れてよかった。小中高で扱う内容や児童生徒の成果物を見れて、自分の所属校種で扱う内容について、より理解が深まった。（小学校・養護教諭）
・小学校でのがん教育のイメージが湧かなかったため参考になりました。（小学校・養護教諭）
・特に小学校の実践授業が良かったです。実際に疑似バイキング体験で児童の食べたいものからガンになりやすい食事・予防できる食事を連想させるという授業形態が児童の主体性を高められる内容だと思ったからです。（中学校・教諭）
・保健の授業でがん教育を行う際に、一時間で終わるのではなく、事前調査から始め、生活習慣病全般の知識とがんに関する専門的な知識を指導できるようにしたい。（中学校・教諭）
・外部講師の活用について授業前後の打合せ方法や共通理解すると良い点などとてもわかりやすかった。（中学校・教諭）
・普段見ることができない授業実践でしたので、展開や教材など参考になる場面ばかりでした。（中学校・主幹教諭）
・本人や家族の実生活での意識の高め方を知ることができました。（中学校・養護教諭）

・実践例を見て、授業内容や進め方を学べたとともに、授業前後の子供たちのがんに対する知識や理解の深まり方の変化を知ることができたから。（中学校・養護教諭）
・教科担当や学年と連携しながら「がん教育」をすすめる必要があると感じました。グループワークや外部講師の活用など参考になりました。（中学校・養護教諭）
・自校は、がん教育を外部講師に任せてしまっているため、教員が行うがん教育を見せていただき、非常に勉強になりました。（中学校・養護教諭）
・各学校でがん教育をどのように取り上げているのか、外部講師の具体的な活用の仕方を理解することができた。テーマや教材についていろいろな角度からアプローチすることが大切だと感じた。「死」と絡めながら命の大切さや尊さなども一緒に学ぶことができると実感した。（高等学校・教諭）
・普段は高校の授業が中心なので、小・中学校の実践を知ることができ大変勉強になりました。小学校での子どもたちの「なんで？」を引き出す方法や各種別ごとの配慮事項等は高校教育でも活かせると思います。（高等学校・教諭）
・高等学校の授業実践では、まず、もし自分が癌に罹ったらという題材で他人事ではなく自分事として考えさせているところが素晴らしいと考えた。また、癌という恐ろしい病気の現実をしっかりと理解させることで、罹患者への思いやりなどを考える機会にも繋がると感じた。今の若者の興味をひきそうな言葉やグラフを用いることで授業全体の面白みを出せていたので、非常に参考になった。（高等学校・教諭）
・外部講師を活用することによって、より説得力のある生きた情報が子どもたちに残った。教諭だけの授業では根拠が弱いと感じた。教諭は教諭の立場として、医師は医師の立場として、サバイバーの方はその経験から語ることで、がんに対する学びが深まっていく様子を感じることができたから。（高等学校・教諭）
・熊谷市立太田小学校の実践が大変参考となった。全学年で生徒にわかりやすい「がん教育」を行っていた。生徒からのアンケートを実施するなど児童がどこまで理解しているのかを確認している。大変参考となった。（高等学校・教頭）
・どのように興味関心を持たせるかという点が難しいと感じていましたが、いろいろな実践方法を通じて児童生徒が主体的に学んでいる事例を聞くことができ、参考になりました。それぞれの特性を生かした指導計画をしたいと思いました。（高等学校・養護教諭）
・授業ではがんの基本的な知識から、外部講師を招いた授業まで、展開を工夫することによって、病気のことだけではなく、自分自身の健康や今後どのように生きていきたいかという所まで考えを深めることができることも分かった。（高等学校・養護教諭）
・各年代の目標設定、期待する効果など、現状を知ることができた。（特別支援学校・教諭）
・小・中・高でどのようにがん教育を行っているのかを学ぶことができて良かった。がん教育と聞くと、すごく難しく感じていました。私は特別支援学校に勤務しているので内容的に難しく、特別支援学校ではがん教育は無理なのではと思っていましたが、研修会で学ばせていただき、どう生きていくかということや、生活習慣、がん検診をうけることの大切さなど、特別支援学校の生徒でもできるのではと思いました。バイキング形式で食事を選ぶのも明日からの授業でも活用できる内容だと思いましたし、キャベツを用意したりわかりやすいと思いました。（特別支援学校・養護教諭）
・自身が特別支援学校の勤務のため普通校の先生方がどのようにがん教育を実際に行っているのか、授業の教材やねらい、学びの意図も含めて大変勉強になりました。（特別支援学校・養護教諭）

・小学校・中学校・高等学校において、児童生徒の発達段階を踏まえながら学習内容を設定することが大切であることがわかった。特に、外部講師の活用については、学習内容や児童生徒の実態とともに、講師の専門性をより効果的に生かすための方策活用の方法、タイミングなどを検討すること、事前に協議してねらいを明確にすることが重要であることを改めて考えることができた。（市町村教育委員会・指導主事）

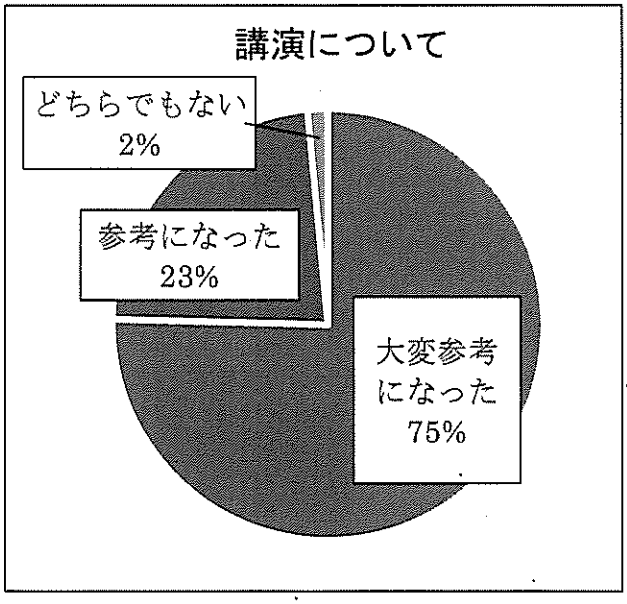
○外部講師関係者　※一部抜粋

・生徒たちの意識のレベルアップにつながる内容であると感じました。（医療関係・学校医）
・実践事例と発表を聴講し、それぞれの対象に応じたがん教育がされておりとても興味深い内容であった。また教育の場でのがん教育に関する現状や課題を知ることができ、学校でのがん教育の重要性を改めて感じました。（医療関係・看護師）
・小中高でのがん教育の具体例が分かった。特に高校生ではグループ学習を通して自ら学び、プレゼンテーションもそれぞれよく考えられていたと感じました。一連の学習の中で外部指導者からの専門知識を土台としたサポートや、がんサバイバーの方からの生の声を聴くことは有効だと思う。（医療関係・薬剤師）
・生徒たちに学んでもらうため、先生方の様々な工夫、努力がみえた。生徒もしっかり勉強できていて難しいことを勉強ができて今後の生活に活かされると思った。（医療関係・薬剤師）
・応用→基礎→発展の流れによる実践が学生の体験を通して理解につながることが印象的でした。（医療関係・薬剤師）
・太田小学校の年間を通して様々な角度からの指導・児童の学びは、一保護者としてもとても羨ましかったです。吹上秋桜高校の生徒の皆さんの着眼点から結論(学び)は正直びっくりしました。（がん経験者）
・小学校では応用から入り基礎に戻る。これは目からウロコでした。それがより理解度を高めると感じました。中学校では学校の先生とがん専門医では着眼点の違いなどがよく分かりました。高校の生徒たちの発表で、がん保険の話が出たのは驚きでしたが、でも切実な課題だと思います。（がん経験者）
・小・中・高とがん教育について全体を体系的に理解できたことは有意義でした。（がん経験者）

＜外部講師指導事例・講演について＞

◎内訳

分類	人数（人）
大変参考になった	９８
参考になった	３０
どちらでもない	２
参考にならなかった	０



○教育関係者　※一部抜粋

・がん教育を進めるにあたって、専門家を招いての学習が効果的であると感じた。専門家の知識を学ぶだけではなく、がん教育に関わっている現場の方の意見が反映されることが大切だと考えさせられた。（小学校・教諭）

・児童の実態や学校の指導計画に基づいた指導がとても良いと思いました。外部講師との打ち合わせの大切さがよくわかりました。（小学校・校長）

・外部講師として、儀賀先生が実際に授業をしている様子を45分間見せてもらい、非常にがん教育のイメージがよりリアルになった。（小学校・養護教諭）

・外部講師についてはどのような内容を扱う（得意とする）指導者なのかを事前に知るすべがあるとよいと思う。医療従事者でもがんについて病理的な説明をしていただけるのか、医療的ケアや生活について話していただけるのかなど学校として把握したうえで自校の取り組みに適した講師を依頼することが重要だと思う。（小学校・養護教諭）

・本校では、外部講師を活用して動画でのオンデマンド授業を取り入れていますが、打ち合わせの方法や指導の内容については例年通りで進めてしまっている節がありました。今回のご講演から、外部講師を活用したがん教育について具体的な進め方を知ることができ、大変参考になりました。（小学校・養護教諭）

・研究授業の内容を踏まえて、外部講師を活用して児童へ指導しているところがとても良いなと思いました。打ち合わせ等も児童にどんな指導をしたいか明確になっていれば短い時間でもできることが分かり、外部講師の活用のハードルが低くなったなと思いました。実際に小学生で行っている講演を見れたり、今回の質問に答える形式は、今まで自分が思っていた疑問がなくなり、がん教育への安心感につながりました。（小学校・養護教諭）

・免疫や遺伝子の知識から実際に患者さんとの関わりを話していただくことが学びにつながっていると感じました。学校のカリキュラムや講師との打ち合わせが重要だと再認識しました。（小学校・養護教諭）

・外部講師の指導が児童に寄り添った指導であたたかい授業であった。（小学校・養護教諭）

・生活習慣の指導の中でがんという病名に触れるものの、深く掘り下げて指導する機会は今まであまりありませんでした。しかし、これだけ多くの人が罹患する病気となった現在、知らない・知る機会がないまま大人になることもとても危険なことだと感じています。この先自分自身ががんにならなくとも、身近な人を支える側として等、なんらかの形でがんに関わる機会が出てくると思うので、「生きること」を考える教育としてがん教育に取り組んでいきたいと感じました。（小学校・養護教諭）

・配慮の必要な児童への対応について、具体的に学ぶことができてよかったです。このことが壁になっている学校もたくさんあると思いますので、多くの学校で役立ったと思います。（小学校・養護教諭）

・質疑・応答で現場の職員が知りたいことについて回答をいただいたので、個人的に抱いていた疑問についても明確な答えがあり、大変参考になりました。（小学校・養護教諭）

・普段と違い講師が授業を行うことで、より関心をもって授業に取り組む事ができると感じました。また、より専門的な知識や、当事者の視点から話を聞く事ができるため、自分ごととして考え易くなるため、外部講師を積極的に活用していきたいと感じました。（小学校・養護教諭）

・Q&A 方式の講演の中で、質問がとても私自身の疑問と重なることが多くがん教育を行うことへのハードルが下がるような、分かりやすく親しみやすい内容で大変、参考になりました。（小学校・養護教諭）
・外部講師の方の話は、難しいイメージがありました。とても分かりやすい話をしていただけるのなら、お願いしたいと思いました。（小学校・養護教諭）
・外部講師の方が、児童への指導を親身に丁寧に行ってくださっていることを知れたこと。（小学校・養護教諭）
・儀賀先生の温かい雰囲気の中で、「みんなの分からない」を大事に、TeamLeaning の授業。「なんで？なんで？の世界にこどもたちを誘うこと」。わたしに耳を傾けるなど、講演をお聞きし、がん教育だからこそ、改めて外部講師の必要性、大切さを感じました。（小学校・養護教諭）
・儀賀先生の太田小学校での特別授業がとても心に残りました。「命は奇跡、がんを防ぐチャンスは毎日の日をどう過ごすか、一日一日を大事に過ごすこと」という内容が印象的でした。命に向き合っているドクターからの言葉はとても重く、外部講師の必要性を強く感じました。また、事前の打ち合わせをしっかりすることが重要だということがわかりました。（小学校・養護教諭）
・実践したことがない学校にとっては、がん教育を進めるための細かい実践例を聞けたことで、この研修前は漠然としていたことが今では明確化されたような実感があるので、とても勉強になりました。（小学校・養護教諭）
・質疑応答の形式を取っていたので、「どんな風に考えたらいいのかな」と私も感じていたことはみなさんも同じように感じていることが分かりました。（小学校・養護教諭）
・常に一人で対応するのではなく、外部との連携が大切だと感じたため。（中学校・教諭）
・多くの人が自分または家族でかかる可能性がある「がん」について、専門家に指導していただく機会は貴重である。可能であれば今後招聘等も検討したい。（中学校・教諭）
・外部指導講師については、本校のスタイルが確立しているが、今回の事例を参考に、生徒の実態などにあわせた柔軟な対応も必要な場合があることを再認識することができた。（中学校・教頭）
・正しい知識に基づき、病気や病人だけでなく誰にとっても優しい考え方を学ぶことができた。（中学校・校長）
・儀賀先生の著書を拝見させていただき、本研修会をとても楽しみにしておりました。先生の人柄を感じる温かいお話を聞くことができ、「がん教育」のあり方について養護教諭として考える良い機会になりました。（中学校・養護教諭）
・以前、儀賀先生に外部講師を依頼したことがありました。高等学校の定時制での内容と、今回の小学校の取り組み内容を比較することができ、とても参考になりました。高等学校で講演をいただいたあと、先生の著書を拝読し、理解を深められたと感じております。「やり方」ではなく「あり方」という言葉の意味を、小学生に向けてご指導される姿を拝見して実感しました。「今後のがん教育の在り方」が話題にあがりましたが、養護教諭の立場から、子供たちに伝えていければ、と感じました。（中学校・養護教諭）
・外部講師の方だからこそ伝えられる現場の生の声が、本当に子供たちにとって意義深いものであることを改めて認識しました。（中学校・養護教諭）
・知りたかったことや疑問点などを分かりやすくお話頂き大変勉強になりました。（中学校・養護教諭）

・児童は、良く講師の先生の話を聞いていて、真剣に学習に取り組んでいました。意見交換や自分の意見も発表できて素晴らしいと思いました。がん教育の必要性を感じ、自分や友人を大切にする指導にも繋げられるので、ぜひ、本校でも行いたいと思います。（中学校・養護教諭）
・大学生のときに儀賀先生の授業を受けたことがありますが、緩和ケアの話は何度聞いても涙が出ます。がんにならないようにどうしたらよいか学ぶのも大切ですが、自分たちが学校に通い楽しく過ごしている裏で、〇〇が好きなんて言えない状況で治療に取り組んでいる同世代の子や、親を亡くした子がいることを知り、本人や家族の気持ちを考えるのもとても大切ながん教育だと感じました。（中学校・養護教諭）
・教員だけではこれだけ充実した指導は展開出来ないと感じました。儀賀先生は本当に素晴らしい方だと思いました。どうやって子どもたちに伝えたら良いか、言葉を吟味し、真剣に向き合ってくださっているのがよく分かりました。（中学校・養護教諭）
・事前の打ち合わせが大切であることがわかりました。前後の授業の計画をしっかり立て、共有しながら実施することが必要だと思いました。（中学校・養護教諭）
・儀賀先生の授業がとてもよかった。しかし、がん教育の重要性は理解しているが、授業時間の確保の難しさと、教育の成果がすぐに見えるものではないので、評価が難しいと思いました。（中学校・養護教諭）
・小学生に向けた講演であったが、小学生を飽きさせない工夫が多くされていた。まず、スライドはイラストや写真がメインで文字は少なめであった。また、小学生に話を聞いたり、興味がありそうな話題で場の雰囲気を作っていた。私はギターは弾けないですが、「夜明けをくちずさめたら」の歌を紹介しながら感じたことを発表してもらうという活動も面白そうだと考えました。最後のまとめとして、小学生でも自分事として癌という重い病気を受け止められたのではないかと感じました。（高等学校・教諭）
・専門家からの視点から、子どもたちに命の大切さやがんによって失うものの大きさを伝えることは、教諭にはできない説得力があった。がんについて、子どもたちは現実味を感じにくい年齢であり、自分事に置き換えるのは難しいが、専門家から聞くことによって、興味の持ち方や、考え方は、教諭のみが教えるよりも深まると感じたから。（高等学校・教諭）
・儀賀先生のご講演は、がんについての知識を得るだけでなく、感動するようなお話もあり、大変参考になりました。特に印象に残ったことは、配慮が必要な生徒についてのお話です。がんの人等がいて当たり前という心づもりで教室に行くことやそういった生徒への配慮の仕方について、学ぶことができました。辛くなったら途中で抜けても良いことや、戻ってくることもできることなど生徒の実情に合わせて声かけをしていきたいと思いました。（高等学校・養護教諭）
・配慮が必要であったり、子供にとって身近でない場合があったりと個人差が大きい題材であるからこそ伝え方や取り扱いに難しさを感じていました。授業実践の中で一つ一つの目的を詳しく講義していただき、大変参考になりました。また、難しいから外部講師に任せる、外部講師が話したほうが伝わりやすい、ということではなく「活用」ということが大切なんだと学びました。時間差でチームティーチングをしたという言葉が印象的でした。それぞれの立場の特性を生かした指導計画をしたいと感じました。（高等学校・養護教諭）
・がんという病が大変身近で、誰でも起こりうる現代、「がん教育」の重要性は理解できるものの、重いテーマのため、学校で行うのは荷が重いのではないか、と講演を聴く前は思っていた。今回、講演を聴いて、外部講師の方の実際の授業を拝見し、とても素晴らしいお話を子どもたちにされていて、また、命の大切さや生きることという大きなテーマもがん教育を通じて伝えら

れると思った。儀賀先生は緩和ケアをご専門にされている方なので、ただ励ますのでもなく、決めつけるでもなくて、人の尊厳を大事にされている感じがした。(高等学校・養護教諭)
・当事者やその家族がいたときの配慮事項が気になっていたのですが、言葉に気をつけつつも、むしろ当事者に知ってもらいたいと意識しているということを知ることができたから。(高等学校・養護教諭)
・儀賀先生の授業を動画で見ることができて良かったです。パワーポイントで見るよりもやはり大変わかりやすく、子どもたちが心動かされる授業の実際を学ぶことができました。事前質問にお答えくださった内容も外部講師を依頼するにあたり勉強になりました。特に、配慮が必要な児童生徒がいる場合に留意していることについて、細やかな配慮や言葉選びなど必要だと思うのですが、がん教育に限らず配慮が必要な生徒にこそ伝えたい内容だと強く共感しました。チームラーニングという姿勢や科学的態度を育むと広く捉えること大切だと思いました。(特別支援学校・養護教諭)
・日々がん患者を実際に目にし接している方だからこそ伝わるメッセージ性はとても大きいものであると実感しました。命と向き合う方の専門性が子どもの心にストレートに刺さる内容であり大変参考になりました。また、がん教育における外部講師の専門性を生かすうえでは一回の特別講師の授業だけではなく、段階的に授業を構成していく必要性が重要であることも学べました。(特別支援学校・養護教諭)
・外部講師だと子どもたちも普段より真剣に聞いてくれる気がします。また、経験が豊富でお話も子どもを引き付ける力も上手なのですごいなと思いました。(特別支援学校・養護教諭)
・外部講師との連携や、配慮をどのようにしていくかなど、実際のこれまでの研究の様子からお話いただき、よく分かった。(市町村教育委員会・指導主事)
・外部講師を活用した授業の動画を視聴させていただき、先生が専門的な知識を子供たちにわかりやすく指導しながら、「がんに関する知識」はもちろんのこと、そこから「自分の生活を振り返ること」「命の大切さについて考えること」へと児童が考えを深めている様子がとてもよく伝わり、事前に学習のねらいと内容をよく検討することの重要性を痛感した。ご講演からは、動画で視聴させていただいた授業を進めていく上で配慮したことや、外部講師との連携における詳細なポイントについて学ぶことができた。(市町村教育委員会・指導主事)

○外部講師関係者　※一部抜粋
・専門的な知識のある講師やがん経験者の生きた知識を聞くことでより自分ごととして考えられるきっかけになると感じました。(医療関係・学校医)
・真摯に対応することで受け止める側の意識が高まることが感じられた。(医療関係・歯科医師)
・難しい話にせず、生徒の反応にこまめに対応しながら、命の大切さを伝えようとする意図が伝わりました。歌もお上手でした。(医療関係・看護師)
・対象のレディネスを把握し、対象者や学校側の意向にあわせてがん教育について講義されており、とても勉強になりました。子供たちの思いや感情に問いかけるように一緒に考える姿勢の大切さを学びました。「やり方」ではなく「あり方」を大切にしたいと感じました。(医療関係・看護師)
・がん教育に興味があり、今回の研修会に参加させていただきました。薬剤師ではがん教育への関わりは難しいのかなと思っていましたが、儀賀先生より自分の普段従事している業務から感じることを話せばよいのではとのお話を聞き、今後も研鑽を積んでいきたいと勇

気をいただきました。ありがとうございました。（医療関係・薬剤師）
・講義の内容や進め方等について講義の動画やQ&Aがあったので、とても理解しやすかった。（医療関係・薬剤師）
・講師の方の多数の体験や経験、学校側の考えなど、とても具体的で参考になりました。（がん患者団体）
・子どもの学びに対して、大人が決して足止めをすることがないように、「なぜ」という気持ちを大切に見守る姿勢に感銘を受けた。（がん経験者）
・子供達が”見つける”の考えを引き出す視点や、言葉かけ、身近な例を挙げて導いている。歌の場面は感動しました。（学校薬剤師）
・がん教育を実施してから生徒がどのように理解したか、振り返りの大切さがよく分かりました。（医療従事者）

＜感想等＞

○教育関係者　※一部抜粋
・動画配信方式による研修会は、可能な時間に受講できるので、大変有り難いです。今回のように授業の様子も拝見できると、具体的に授業の流れがわかり、参考になります。とても良かったです。ありがとうございました。（小学校・校長）
・開催時期をもう少し早くしていただけると、夏休み中に研修が受けられたので、検討していただけるとありがたいです。「がん教育」の開催方法や子供たちの反応について映像越しに見られて非常に参考になりました。ありがとうございました。（小学校・養護教諭）
・オンデマンドの研修会のため、自分の時間に合わせて動画視聴をすることができとても助かりました。準備等大変だとは思いますが、オンデマンドの開催は今後も継続していただけると毎年しっかり勉強できるなと思いました。（小学校・養護教諭）
・がん教育が、年間計画に位置付け、学習できるように本校でも、保健主事と相談して授業改善したいと思います。（小学校・養護教諭）
・盛りだくさんの内容であったたため、動画を全部観るためには、もう少しだけ早い時期に動画を公開していただけるとありがたい。また、動画の時間を文書に明記していただけるとありがたいです。（26日が始業式のため）（小学校・養護教諭）
・開催時期、方法は現行通りでいいと思います。資料がダウンロードできるのも有り難いです。発表者の先生方、ご準備等大変だったかと思いますが、いただいた資料を活かしていきたいと思います。（小学校・養護教諭）
・授業を1コマ分見せていただくことができて大変参考になりました。ありがとうございました。（小学校・養護教諭）
・がん教育の概要は理解していたつもりだが、どのように授業を進めるのか、打ち合わせや調整をしていくのかなど、詳しいところは漠然としていてわからなかったので、そういったところを学べてとても有意義だった。オンライン配信型だと、仕事の都合がつきやすく、じっくり聞くことができるので、とてもよかった。（小学校・養護教諭）
・研修会の開催時期や開催方法ともに良かったです。行政説明も必須だと思います。オンライン研修は疑問に思った事、興味深い内容を見直して視聴出来るのでとても充実した研修となりました。ありがとうございました。（中学校・養護教諭）

・がん教育について、導入、展開をすごく悩んでいたのですが、生徒の実態（家族の状況など）を考慮して、家庭の協力、地域の協力を得ながら、本校でも行っていきたいと考えております。（中学校・養護教諭）
・動画視聴形式の研修会は学ぶ時期を自分で決められるのでとても良かったです。夏休みに入った早い時期から配信していただけると更にありがたいです。行政説明、実践事例、講演会と非常に充実した内容でした。特に講演は、講師が話すだけでなく、授業に携わった中で感じたことや子どもたちへの想いを語り、さらに私たちの質問にも答えてくださり、今までにはあまりない形式でした。ここでの学びを自校のがん教育に役立てます。ありがとうございました。（中学校・養護教諭）
・儀賀先生の実際の指導を拝見出来、大変ありがとうございました。「がん」を切り口に、生き方、あるいは死への向き合い方など自分の生き様を考えるきっかけになる講演だと思いました。オンデマンドで視聴するには、稼業日では時間が確保できないため長期休業での配信は助かりました。（高等学校・養護教諭）
・今回のように、一番最後のＱ＆Ａ形式で、一つ一つ質問に丁寧に答えられていく、という形式はオンラインでは新しかったがとても良かった。Ｑ＆Ａ形式で、より一層、講師の方のお考えを聞くことが出来、講師の方のお人柄も感じられて良かった。（高等学校・養護教諭）
・儀賀先生の授業涙が出て心動かされました。生き様やどう生きるかという内容に、自分自身を振り返る機会になり、養護教諭として子どもたちのいのちの大切さや、あなたの大切さを伝えたいという初心に帰ることができました。授業をフルタイムで見る機会はなかなかないので、オンラインだからこそできる研修だと思いました。外部講師を活用し生の声を子どもたちに届けることの大切さを感じました。また、各校種の先生方の実践例も大変勉強になり日々の実践で今日から活用させていただける内容や、やってみたいと思える内容でした。（高等学校・養護教諭）

○外部講師関係者　※一部抜粋
・小学校では高学年と低学年で教える内容を変えていかないと理解ができないと思いました。病気に対する興味を持たせるには学校保健教育と合わせて教える必要があると思います。埼玉県教育委員会と健康長寿課とで共同のがん教育指針を作成してはどうでしょうか。講演資料なども作成していただけると医療関係者の外部講師も参加者が増えると思います。（医療関係・学校歯科医）
・学校薬剤師としてどの様な関りをしているかと取り組み事例がありましたら知りたいです。（医療関係・薬剤師）
・開催時期はこの時期を設定していただきとても利用し易かったです。また動画配信での研修でしたので、空いている時間を有効活用しながら視聴することができました。このたびは、とても勉強になる内容でしたので、有意義な時間を過ごすことができました。作成に携われた関係者の皆様に心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました。（がん経験者）
・個人的には暑い時期と寒い時期を避けてリアル開催を希望します。机上の知識ではなく、そうかそういう裏付けがあるのかという内容があれば嬉しいです。がんを防ぐための新12か条はその一つ。記憶力が低下する病気も併発しているので、何度も反復したいです。（がん経験者）
・外部講師でがん経験者の講演がどのようにされているかについて知りたいと思いました。（がん経験者）

Ⅲ　令和６年度　埼玉県「がん教育」授業研究会

＜がん教育授業研究会資料＞

【小学校の実践】	所沢市立椿峰小学校
【中学校の実践】	北本市立西中学校
【高等学校の実践】	県立杉戸高等学校

埼玉県マスコット「コバトン」

令和６年度埼玉県「がん教育」授業研究会（小学校）開催要項

１　趣　旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがん教育の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

２　主　　催　　埼玉県教育委員会

３　期　　日　　令和６年１０月２４日（木）

４　会　　場　　所沢市立椿峰小学校（所沢市小手指南５－２０－１）

５　参加対象者　（１）西部教育事務所管内小学校の教職員（教諭、養護教諭、保健主事等）
※所沢市立小学校の教職員は各校１～２名の参加をお願いします。
（２）県内特別支援学校（小学部設置）の教諭、養護教諭、保健主事等、及び市町村教育委員会の指導主事等
（３）所沢市立中学校の教職員（保健体育科教諭、養護教諭、保健主事等）
（４）埼玉県がん教育外部講師関係者

６　日　　程

（１）受　　付　１３時００分～　（　体育館　）
（２）公開授業　１３時３０分～１４時１５分　（　体育館　）
（３）全 体 会　１４時３０分～１４時５０分　（　体育館　）
（４）研究協議　１５時００分～１６時３０分　（　体育館　）

７　公開授業

学年	授業者	主　題　名　等
６年	T1：池田　哲将　教諭 T2：上　　美紗　養護教諭	特別活動「健康な生活とかけがえのない命」 学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の育成

８　指導者及び役員（埼玉県がん教育推進連絡協議会）

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	教育指導幹	大松　武晴
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主　　幹	脇田　一亮
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指導主事	坂上三四郎
埼玉県教育局西部教育事務所	指導主事	伊藤　将瑛
所沢市教育委員会保健給食課	指導主事	三好明日美

埼玉大学教育学部	准教授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教授	儀賀　理暁
獨協医科大学埼玉医療センター	課長	多田　幸子
坂戸市立浅羽野小学校	教諭	野口　晋平
所沢市立明峰小学校	養護教諭	家入　夕貴
上尾市立大石中学校	養護教諭	川嶋　紅音
県立三郷高等学校	教諭	佐々木智子

9　参加について

・上履きと下足入れをお持ちください。
・駐車場には限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用いただくか、乗り合わせにご協力ください。
・お車でお越しの際は、校庭に駐車してください。
・会場校に来校する際には、以下を参照ください。

【所沢市立椿峰小学校までのアクセス】

〒３５９－１１４６
所沢市小手指南５－２０－１
TEL　０４－２９４８－６６０１

▲椿峰小学校アクセス　　▲椿峰小学校ホームページ

第６学年２組　学級活動（２）指導案

令和６年１０月２４日（木）第５校時
場　所　　体育館
児童数　　３５名
指導者　T1　池田　哲将
　　T2　上　美紗（養護教諭）

１　題材名　「健康な生活とかけがえのない命」～健康な生活を長く続けよう～
（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成

２　児童の実態と題材設定の理由
（１）児童の実態

今年度、体育科保健領域「病気の予防」において、「病気は、病原体・体の抵抗力・生活行動・環境などが関わり合って起きること、また、その予防のために適度な運動・食事・休養及び睡眠をとることなどによって、体の抵抗力を高める必要性」について学習してきた。「がん」については、日本人の死因の第１位であることを学習しているが、がんの主な要因や予防法など、詳しい内容には触れていない。

また、家庭科の学習「生活時間をマネジメント」では、１日の時間の使い方について学習した。そして、自分がどのように時間を使っているかを確認し、有効な時間の使い方について問題を見出し、課題を設定し解決方法を考えて、実践を行った。家庭生活を支える仕事については、その積み重ねによって健康、快適な生活ができることに気付くことができた。

さらに、道徳科では「命の尊さ」について、生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであること、生命を尊重することについて学んだ。

以上のように、これまでの学習において教科横断的に健康や命の大切さについて学習してきた。

事前に実施したがんに関するアンケート「がんの学習は健康な生活をおくるために重要なことである。」では、100％の児童が「そう思う」と回答した。また、「がんは誰でもかかる可能性のある病気である。」に対しても、100％の児童が「そう思う」と回答している。一方で、「自分はがんにならないと思う。」の問いについては、31％の児童が「そう思う」と答えていた。がんについてのイメージがあり、自分事として捉えている児童は少なくないことが分かった。「家族や身近な人が健康であってほしい」の問いに 100％の児童が「そう思う」と答えており、大切な人の健康を願う思いは強い。

本学級の児童は、これまでも学び合い活動を各教科で行ってきた。本題材においても単元を通して学び合い活動を取り入れ、一人一人が「がん」を身近な課題として捉えるとともに、健康と命の大切さについて考え、主体的な行動に繋げていくことが期待できる。

事前アンケートの結果

	質問	はい（思う）	いいえ（思わない）
1	がんの学習は、健康な生活をおくるために重要だ。	１００％	０％
2	がんの学習は、健康な生活をおくるために役に立つ。	９７％	３％
3	「がん」は誰でもかかる可能性のある病気である。	１００％	０％
4	「がん」は進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	１００％	０％
5	「がん」は日本人の死因の第２位である。	８０％	２０％
6	タバコを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できる「がん」もある。	９４％	６％
7	早期発見すれば、がんは治りやすい。	８３％	１７％
8	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくてもよい。	２３％	７７％
9	がんの治療法には手術治療しかない。	４６％	５４％
１０	がんの痛みは我慢するしかない。	４６％	５４％
１１	自分はがんにならないと思う。	３１％	６９％
１２	将来タバコは吸わないでいようと思う。	８８％	１２％
１３	日頃から、バランスのよい食事や適度ない運動を行うなど、健康な体づくりに取り組もうと思う。	９１％	９％
１４	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	９７％	３％
１５	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	５１％	４９％
１６	がんになっても生活の質を高めることができる。	５４％	４６％
１７	がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	９７％	３％
１８	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	８６％	１４％
１９	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	１００％	０％
２０	長生きするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	９７％	３％

（２）題材設定の理由

学校における健康教育は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質能力を育成することを目指している。令和５年３月に改訂された第４期がん対策推進基本計画によると、昭和５６（１９８１）年から現在まで日本人の死因の第１位は「がん」であり、令和３（２０２１）年には、年間約３８万人と約３人に１人ががんで亡くなっているほか、生涯のうちに約２人に１人が罹患すると推計されているなど、依然として、国民の生命と健康にとって重大な問題である。

また、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」という全体目標を達成させるためには、児童が健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めることが大切であると捉えている。

さらに、「がん」について学ぶことは、健康教育の一環として、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質能力の育成につながると考え、本題材を設定した。

（３）本題材の指導

本題材では、「がんについて正しく理解すること」「健康と命の大切さについて主体的に考えること」という２点について学習を進めていく。体育科保健領域、家庭科、道徳科、特別活動など様々な教科・領域に加えて、さらに、健康診断や発育測定などの機会も生かし、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力を教科等横断的に身に付けさせたい。「がん」に対する科学的根拠については、学習指導要領に則り、中学校及び高等学校で学習することを踏まえ、小学校段階では、「がん」に対する基礎的な知識（原因、予防、早期発見、検診等）についての理解に絞って学習し、健康と命の大切さについて主体的に考える児童の育成を目指す。

また、がん経験者である外部講師による出前授業を行い、「がんに対する正しい理解」のほか、諦めない精神的な強さ・健康の大切さ・命の大切さ・家族の大切さについて実体験をもとに話してもらい、自分事として捉えられるようにする。

そして、体育科保健領域の内容を振り返りながら、日常の学校生活は基本的生活習慣の基盤であることや、学校で実施している定期健康診断は病気やがん予防のための早期発見につながることに改めて気付くことができるようにしたい。学校内外の日常生活にフォーカスし、身近な健康に結びつけるように学習内容を工夫していく。自分自身だけではなく、家族や友人と共に健康に生きていくための手立てを主体的な学級活動の話合いの中で深め、主体的・対話的な活動を通して、将来自己選択・自己決定できるような児童の育成を目指していく。

3　評価規準

（体育科保健領域）

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることを、言ったり書いたりしている。 ② 感染症の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めること、感染症にかかったら早めに治療を受け、安静にすることで回復を早めることが必要であることを、言ったり書いたりしている。 ③ 心臓病や脳卒中などの生活習慣病の予防には、適切な運動を行い、栄養の偏りのない食事をとることなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを、言ったり書いたりしている。 ④ むし歯や歯周病などの生活習慣病の予防には、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを、言ったり書いたりしている。 ⑤ 喫煙や飲酒は、健康を損なう原因となることを、言ったり書いたりしている。 ⑥ 薬物乱用は、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを、言ったり書いたりしている。 ⑦ 人々の病気を予防するために、保健所や保健センターなどでは、健康な生活習慣に関わる情報提供や予防接種などの活動が行われていることを、言ったり書いたりしている。	① 病気の起こり方について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。 ② 感染症の予防について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。 ③ 心臓病や脳卒中などの生活習慣病の予防について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。 ④ むし歯、歯周病などの生活習慣病の予防について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。 ⑤ 喫煙や飲酒の害と健康について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。 ⑥ 薬物乱用と健康について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。 ⑦ 地域の様々な保健活動の取組について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。	① 学習内容に関心を持ち、よりよく学ぼうとする意欲をもって、学習に粘り強く取り組もうとしている。 ② 他者の考えも受け入れながら進め方を工夫改善するなど、自らの学習を調整しようとしている。

（家庭科）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 生活時間の有効な使い方について理解している。	① 生活時間の有効な使い方について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	① 家族の一員として、生活をよりよくしようと生活時間の有効な使い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

（道徳科）

評価の視点	
【物事を多面的・多角的に考えている様子】 命があることの喜びや可能性、命は多くの人の支えの中で守られているなどの意義について、様々な観点から考えている。	【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】 自分の生活を振り返り、自分に命があることのありがたさについて考え、自分のこれからの生き方について考えを深めている。

（学級活動）

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸問題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりより解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために見通しを持ったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

4　事前の指導

日付	児童の活動	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
3年時	・体育科（保健領域） 「けんこうな生活」 4/4 時間	○個々人の家庭環境はそれぞれ違うことを抑える。	☆心や体の調子がよい状態が健康だということ、健康は自分自身の生活や周囲の環境が要因になって変化することを理解している。 【知識・技能】 〈ワークシート〉
4年時	・体育科（保健領域） 「育ちゆく体とわたし」 4/4 時間	○体の発育のしかたには、個人差があることを踏まえる。	☆体の発育のしかたには、あとから大きくなる人や早く大きくなる人など、個人によって違いがあることをグラフから読み取り、説明している。 【思考・判断・表現】 〈アンケート・ワークシート〉
5年時	・体育科（保健領域） 「心の健康」 4/8 時間	○不安や悩みへの対処には、様々な方法があることと、自分に合った適切な方法で対処できることについて理解できるようにする。	☆心の健康について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習や、資料を調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈アンケート・ワークシート・発言〉
第6学年 4月中旬	・家庭科 「生活時間をマネジメント」 2/2 時間 ・定期健康診断	○自分がどのように時間を使っているかがわかるようにワークシートに記入する。	☆生活時間の有効な使い方について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉

6月中旬 ～	・体育科（保健領域） 1～4/8時間 「病気の予防」	○「がん」が死亡原因の1位であることや、2人に1人が「がん」になる可能性があることを確認するとともに、「がん」について正しく知ることが重要であることを実感させる。	☆病気を予防するためには、よい生活習慣を身に付けることが大切だと理解している。 【知識・技能】 〈発言・ワークシート〉
7月中旬	・アンケート調査	○結果を集計・分析し、児童の実態を把握する。 ○授業後に再び調査を行い、変容を見る。	
9月29日	・道徳 「命を見つめて」	○学習の繋がりを意識できるように、命があることの喜びや可能性、命が多くの人の支えの中で守られていることの意義について、様々な観点から考えさせる。	
10月4日	・「がん経験者からの講話」 佐藤　晋一 様、美由紀 様	○がんで亡くなった人が身近にいる児童・がんになった児童に対して配慮を行う。	☆自己の生活をよりよくするために見通しを持ったり振り返ったりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈観察・ワークシート〉
9月11日 ～ 11月13日	・体育科（保健領域） 5～6/8時間 「病気の予防」	○喫煙の害と健康について、課題を見付け、その解決に向けて考えさせる。 ○飲酒の害と健康について、課題を見付け、その解決に向けて考えさせる。	☆生活習慣病の予防について、課題点や改善策を自分ごととして捉えて考えている。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉

5　単元の指導と評価の計画.

（体育科保健領域）

時間	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	【ねらい】病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こることについて、理解することができるようにするとともに、病気の起こり方に関わる事象から課題を見付けることができるようにする。 1　知っている病名をブレインストーミングする。 2　出された病名を病気が起こる要因ごとに分類する。 3　病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こることを知る。 主たる学習（知識） ・病気は病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こること。	①	①		観察 ワークシート 観察 ワークシート （授業後）
2	【ねらい】病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて、理解することができるようにする。 1　Aさん・Bさんの普段の生活の様子から、病気になる要因を考える。 2　病原体が主な要因となって起こる病気の予防について知る。 3　学習したことを活用して、病原体が主な要因となって起こる病気の予防について具体的に考える。 主たる学習（知識） ・病原体の感染経路を理解し、その予防のために「病原体をなくす」「病原体のうつる道筋を断ち切る」「体の抵抗力を高める」などがあること。	②	②		観察 ワークシート
3	【ねらい】生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったり詰まったりする病気があることや、その予防には望ましい生活習慣を身に付ける必要があることについて、理解することができるようにする。 1　Aさんの1日の生活から、病気になる要因を考える。 2　生活行動がかかわって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったり、つまったりする病気があることを知る。 主たる学習（知識） ・心臓病や脳卒中を予防するためには、健康な生活習慣を身に付ける必要があること。 ・日本人の死因1位が「がん」であることや生活習慣病が原因となって「がん」にかかることがあること。	③	③		観察 ワークシート 観察 ワークシート （授業後）

4	【ねらい】生活行動が主な要因となって起こる病気には、むし歯や歯ぐきの病気があることや、その予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることについて、理解することができるようにするとともに、学習したことを自分の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えることができるようにする。 1　自分の生活の経験から、むし歯や歯ぐきの病気の起こり方について、その原因を考える。 2　その予防の仕方について知り、学習したことをもとに自分の生活に当てはめて考える。 3　がんを防ぐための 12 か条を読む。 主たる学習（知識） ・むし歯や歯周病を予防するには、口腔の衛生を保つなど口の中を清潔にしておくことが必要であること。	④	④	①	観察 ワークシート ワークシート （授業後）
5	【ねらい】喫煙、飲酒などの行為は、健康を損なう原因となることについて、なぜ健康への影響があるか考えたことを学習カードに書いたり、友達に説明したりすることができるようにする。 1　喫煙・飲酒について、三つの学習キーワード（急性影響・慢性影響・未成年への影響）を基に、自分の調べたい課題を決める。 2　教科書や資料を基に喫煙や飲酒による健康への影響を調べ、学習カードに書く。 3　同じ学習キーワードの友達と理由をあげて説明し合い、自己の考え方を再形成する。 主たる学習（知識） ・呼吸や心臓の働きに対する負担がすぐに現れることがあること。 ・受動喫煙により周囲の人への健康にも影響を及ぼすことがあること。		⑤	②	観察 ワークシート
6	【ねらい】喫煙、飲酒などの行為は、健康を損なう原因となることについて、理解することができるようにする。 1　違うキーワードの友達と交流し、喫煙、飲酒の健康を損なう原因について知る。 2　それぞれの学びを全体で共有する。 3　学習したことを基に、喫煙・飲酒を勧められた時の反論を学習カードに書く。 主たる学習（知識） ・飲酒は、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れることがあること。 ・飲酒を長い間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響があること。	⑤			観察 ワークシート

7	【ねらい】薬物乱用は、１回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けるとやめられなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを理解できるようにする。 1　薬物乱用について知っていることを発表する。 2　本時の課題〔薬物乱用の健康への影響を理解し、薬物乱用してはいけない理由を見つける〕を知る。 3　薬物乱用が心身の健康にどのような影響を及ぼすか資料をもとに調べて、薬物乱用をしてはいけない理由を考える。 主たる学習内容（知識） ・飲酒は、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れることがあること。 ・飲酒を長い間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響があること。	⑥	⑥		観察 ワークシート
8	【ねらい】地域では人々の病気や予防をするために、さまざまな保健活動が行われていることを理解できるようにする。 1　自分や家族が健康のために取り組んでいる事を発表する。 2　学校で行われている健康を守る活動についてなど、これまでの保健の学習を振り返らせる。 3　所沢市の広報誌やホームページをもとに、健康に関する情報を調べて、保健所や保健センターなどでは、健康を守るためにどんな活動が行われているか調べる。 主たる学習内容（知識） ・人々の病気を予防するために、保健所や保健センターなどでは、健康な生活習慣に関わる情報提供や予防接種などの活動があること。	⑦	⑦		観察 ワークシート

（家庭科）

時	学習のねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	Ⅰ ねらい ○生活時間の有効な使い方について理解している。 Ⅱ学習活動 ① 生活時間について見直している。	○			ワークシート
2	Ⅰ ねらい ○生活時間の有効な使い方について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 Ⅱ学習活動 ① 家族の一員として、生活をよりよくしようと生活時間の有効な使い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。		○	○	ワークシート

（道徳）

学習のねらい・活動	評価の視点
Ⅰ ねらい ○限りある生命だからこそ精一杯生きようとする態度を養う。 Ⅱ 学習活動 ① 生きていることについて考えさせることで、日々の生活ではあまり意識していないことに気付かせ、問題意識をもたせる。 ② 十一歳でがんのことを伝えられた登場人物の気持ちになって考える。 ③ 登場人物がなぜ、命の大切さを弁論大会で話そうと考えたのかを、小グループに話し合わせた後、全体発表の場を設け、自分の捉え方と比較しながら考える。 ④ 登場人物のメッセージを読んで、どんなことを感じたかを書く。 ⑤ 生きるとはどういうことか、学習で自分が考えたことを書く。	【物事を多面的・多角的に考えている様子】 命があることの喜びや可能性、命は多くの人の支えの中で守られているなどの意義について、様々な観点から考えている。 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】 自分の生活を振り返り、自分に命があることのありがたさについて考え、自分のこれからの生き方について考えを深めている。 ワークシート

（学級活動）※本時は○印

時	学習のねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	Ⅰ がん体験者の方の講話 ねらい ○がん経験者の方の話を聞いて、がんに対する理解のほか、諦めない精神力の強さ、健康の大切さ、命の大切さ、家族の大切さについて考えることができるようにする。				
2	Ⅱ学習活動 ① 保健教育の学習内容の確認をする。（T1） ・３年時「健康な生活」、６年生「病気の予防」について振り返る。 ② １日の健康な生活習慣サイクルについて（T1） ・学校に毎日、登校することは規則正しい生活に直結していることを理解する。 ③ 定期健康診断の意義を理解する。（T2） ・１学期に行った、定期健康診断は将来の健康につながっていることに気付かせるとともに、今後将来的に自ら、進んで健康診断を受ける意思を構築する。（T2） ④ 日本だけでなく世界の健康診断の実態を知る（T2） ・アメリカの実態について知る。 →実際に在留していた保護者に聞く。 ・日本は世界と比べても学校の中で、健康診断を実施する環境整備が整っていることを知る。（ソロモン諸島の例） ⑤ 今日の学習のまとめをする。 ・学級内で健康な生活習慣につながるキーワードを出し合い、ブレインストーミングする。 ⑥今日の学習を振り返り、次時に個人で計画表を作成することを予告する。	○			ワークシート１ ワークシート２ ワークシート３ ワークシート４ TRY

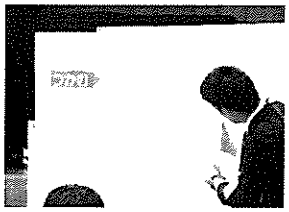
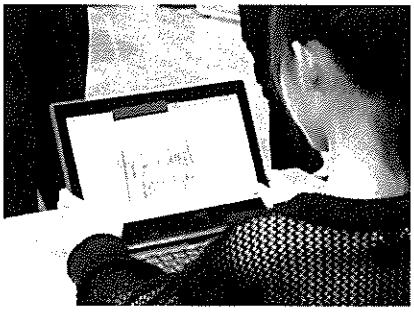
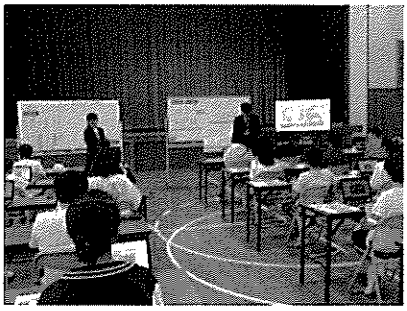
③ 本 時	I ねらい ○がんやがんをとりまく状況を理解し、自他の健康のためにできることを考えることができるようにする。 II 学習活動 ① 前回の復習。 ② 椿の子アンケート（生活習慣）の結果から実態を把握し、健康的な行動について理解する。 ③ ICT を活用して、一人一人が実践できる健康的な日常生活の計画を立てる。 ④ 佐藤晋一さん（外部講師）からのお話 ⑤ 今日の学習のまとめをする。 ⑥ 学習を振り返る。		○	○	発表 ワークシート

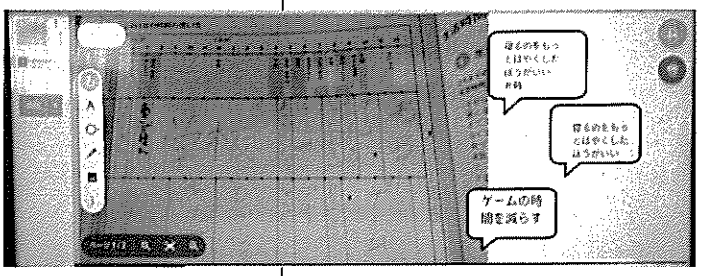
6　本時の学習と指導（2／2）

（1）ねらい

がんを予防するための生活習慣について考え、健康的な日常生活の計画を立てよう。

（2）展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点（指導○ 評価☆ ）	資料等
導入 つかむ (5)	1　前時の学習の振り返り （これまでの学習と本時を結び付ける。）  2　本時のねらい がんを予防するための健康的な日常生活の計画を立てよう。	○前時に出し合っていた生活習慣の改善策や健康１２箇条などのキーワードを掲示し、健康な生活習慣についての意識を高める。（T１）	
展開 さぐる 見つける (30)	3　生活習慣の確認 ・椿の子アンケート（生活習慣）の結果から、児童自身が取り組めている生活習慣を確認する。 4　行動計画を立てる ・個人で健康な日常生活に向けた具体的な行動計画を立てる。 ・今まで学習してきたがんを予防するための手立てについて想起しながら、健康的な日常生活の中で長期的に取り入れられそうな行動計画を立てる。 	○アンケート結果を活用することで、自分自身の問題を明確化できるようにする。（T２） ○家庭科の学習を振り返り、一人一人がそれぞれの健康的な日常生活の計画を様々なキーワードを活用して、選んだり、参考にしたりすることができるようにする。（T１，T２） 	資料① グラフ アンケート結果 タブレット端末 学習支援ソフト

	5　行動計画の共有 ・個人で考えた計画をクラスで共有する。 （課題発見→さぐる→話し合う） ・ゲストティーチャーからのアドバイスを参考にする。  6　学習のまとめ ・がんや病気を予防するためには、健康な日常生活を長く続けるための具体的なめあてや実践方法を決めて、ワークシートに記入する。	○学習支援ソフトの共同閲覧機能で、友達の計画を共有する。 ☆健康的な日常生活を続けることは、がんや病気の早期発見、健康寿命を延ばすことにもつながることを考えている。 （思考・判断・表現） 【ワークシート・観察】	
終末 決める (10)	7　振り返り ・自分の生活のめあてを決める。 ・健康的な日常生活について伝えることができる。 ・家族にどんなことを教えてあげられるか考える。	☆これからの自分の健康な生活について考え、自分のめあてを決めている。 （主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度） 【ワークシート・観察】	ワークシート

（３）板書計画

10月24日　がんの予防

がんを予防するための生活習慣について考え、健康的な日常生活の計画を立てよう。

つかむ

がん予防１２箇条
しんいち先生の生活習慣

前時のキーワード
（短冊）

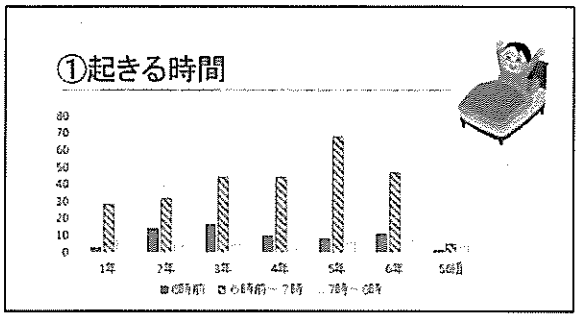
さぐる　**見つける**

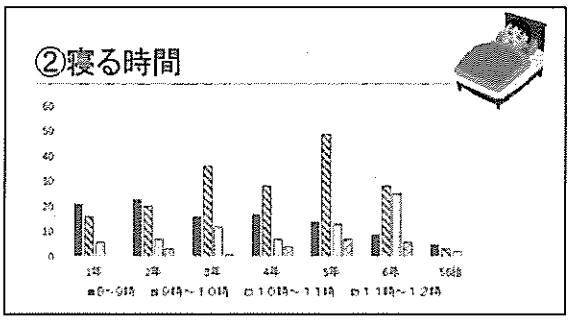
椿の子アンケートグラフ

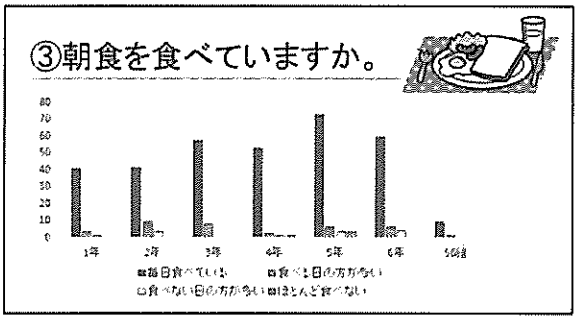
決める

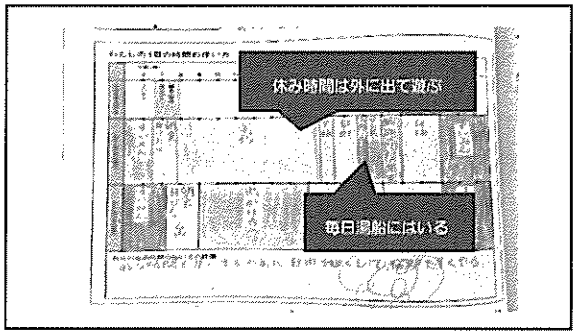
これからの自分のめあて

（4）資料









（学習支援ソフト活用例）

7　事後の指導

主な活動	○指導上の留意点	☆評価の観点
・家族に学習したことを伝え、感想をいただく。 ・がんのリスク減らすための健康的な日常生活の計画について家族と一緒に考える。 ・健康アップカードに取り組み、実生活と結び付ける。 ・外部講師による出前授業を行い、自分事として捉える。	○家族で話をしてもらう時間を設けてもらえるよう、手紙を配付して知らせる。	☆健康な生活習慣について考えたことを、家族に伝え、家庭で具体的な改善方法を４カ条でまとめて取り組もうとしている。 （思考・判断・表現） 【学習カード】

〔学習後〕

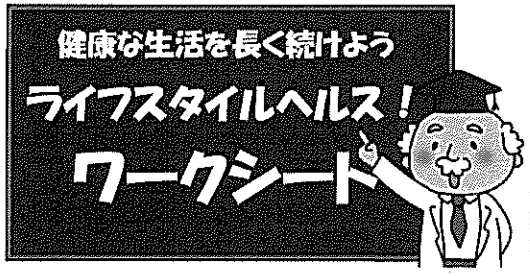
[　課題１　]　「がん」のイメージを書きましょう。

[　課題２　]がんについて知っていることを書きましょう。

- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------

≪ＴＲＹ　スペシャル≫

「がん」について調べたことをまとめよう。



椿峰小学校

年　　組

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〔学習前〕

[　課題１　]　「がん」のイメージを書きましょう。

[　課題２　]がんについて知っていることを書きましょう。

- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------

≪１≫がん体験者の方のお話を聞いて、わかったことと思ったこと感想を書きましょう。

- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------

≪２≫動画を見てわかったことと、疑問やもっと知りたいと思ったことなどを書きましょう。

- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------

≪3≫今日の授業でわかったことと、思ったこと感想などを書きましょう。

- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------

≪４≫今日の授業でわかったことと、思ったこと感想などを書きましょう。

- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------
- ----------

「がん教育」授業研究会 授業概要

所沢市立椿峰小学校
教　諭　池田　哲将
養護教諭　上　美紗

1　はじめに

本題材では、「がんについて正しく理解すること」「健康と命の大切さについて主体的に考える」という２点について学習を進めてきた。授業計画は体育科保健領域、家庭科、道徳科、特別活動等、教科横断的な指導計画とし、また養護教諭の専門性も伴った内容を取り入れることや学級活動の話し合いの中で学びを深め、主体的・対話的な活動を通して、将来自己選択・自己決定できるような児童の育成を目指した。今回の学習の基礎的・基本的な知識については小学校３年生から６年生までに培ってきた体育科保健の学習を基盤として、がん経験者である外部指導者の力を借りながら学習を進めた。そのことでより一層、保健教育の目標である「生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力」の育成にもつながるよい機会であった。

2　授業概要　（授業前後の児童の変容）

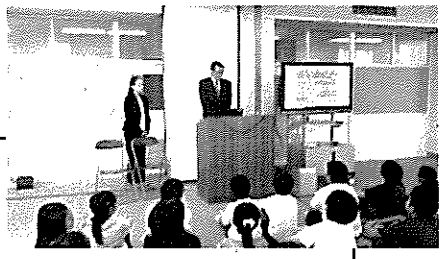
―授業内容をつなぐ教材、ワークシート（ポートフォリオ）から読み解く―

（1）学習前（がんのイメージ）

・こわい　・痛そう　・手術をしないといけない　・治すのが大変　・治らない　・身体の中から壊す　・髪の毛が抜ける　・大人や高齢者がなる　・もしかしたら死んでしまう
・最初は小さいがんだけど「風船」みたいにどんどん膨らんでいく

【考察・成果】

児童は学習前、がんに対して「死に至る、こわい病気」とイメージをもっていた。生活習慣病の予防の単元の中で、がんについて触れているが、がんは日本人の死因の上位であるといった知識にとどまっている。次時で学習した飲酒・喫煙（受動喫煙）の害による影響が大きいと捉えている児童が多くいることも分かった。



（2）学級活動（３時間）１時間目

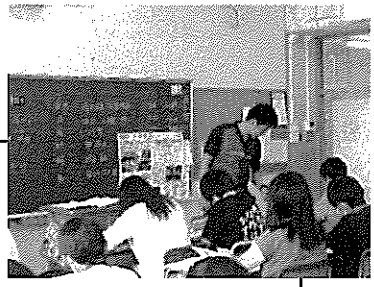
がん経験者の方の話、がんサバイバー動画（文部科学省教材）視聴

・今からできる生活習慣の見直しや、検診、子宮頸がん予防ワクチンなど取り組みたい。
・最初、がんはこわいと思っていたけど意外とこわくないと思えた。
・早くがんを見つければ治しやすいことが分かった。健康的な生活を送ろうと思った。
・がんになって不安になっても支えてくれる人がたくさんいると知り、安心できると思った。
・がんになった人たちで情報を共有するのはいいと思った。
・病気になっても「後悔しないように生きる」という言葉が心に残った。病気になった時に、家族や友達が助けてくれるように大切にしていきたい。

【考察・成果】

外部指導者の佐藤様の講話で、がんは身近な病気であること、がんに関する正しい知識、病名宣告を受けたときのご本人の気持ちや家族の支え、治療の内容、がんや病気に負けない、諦めない「不撓不屈の精神」の話を聞いて、学習前に感じていたがんに対する消極的、悲観的なイメージから前向きで、希望的な捉え方に変化していることが伺えた。学校外の人材を積極的に活用することによりがん患者や家族などのがんと向き合う人に対する共感的な理解を深めることや自他の健康と

命の大切さについて学びを深める効果的な実践となった。



２時間目　健康な生活習慣や学校の定期健康診断の意義について

・健康診断はいろんな病気の早期発見のために検査をしていると知った。
・日本は歯みがき指導や検診が当たり前にできる健康な国なのに、できない国があるのは悲しい。
・自分たちは毎日、健康に良いルーティンをしていたことに改めて気づいた。
・学校に来ることで、運動、食事、病気の予防などができているということが分かった。

【考察・成果】

「健康な生活習慣＝健康な学校生活」というキーワードや、実際に経験している定期健康診断について触れることで、身近な健康について児童が自分事として考えられるような授業を行った。児童は、自分の身体や１日の過ごし方に改めて目を向けることができた。また、自分の生活習慣に興味関心をもち、１日のマネジメントを見直し、改善したいと考える児童が多くいた。

３時間目　がんをとりまく状況を理解し自他の健康のためにできることを考える

・朝ごはんを必ず食べる　・歩く時間を増やす　・甘いもの、味の濃いものを減らす
・夜９時には寝て、朝６時に起きる　・入浴の時間を長くする

【考察・成果】

実際に取り組んでいる行動にフォーカスして、ありふれた日常生活と健康を児童自身が結び付けられるようになり、健康な生活習慣に対する新たな気づきや自分事として捉えるための意識が高まった。また、具体的な行動内容を決めることができた。

（４）プレ授業後

Ａさん：（前）ステージ、種類がある、こわい
　　（後）抗がん剤や手術でがんをなくすことができる。健康な生活をしていてもがんになってしまうことがあるから、がん検診が大切。
Ｂさん：（前）手術をする、こわい
　　（後）こわいけど、早く見つかれば大丈夫。

３　おわりに

がん教育は知識重視の内容になってしまいがちで、児童は「怖い」というネガティブな捉え方になりやすい。しかし、がんという病気について学習すると同時に、関連している単元や生活習慣に基づいた授業計画を立てることで、児童自身が今できる事と将来を結びつけて、より長く健康に過ごすための具体的かつ、健康な行動を自己決定・自己選択について考えさせることができた。また、がん体験者の方の話を聞き、命と向き合うことで児童は「どんな自分で在りたいか」を問うことができた良い機会となった。

学校の学びを児童から保護者へ伝えることを増やしていき、家庭とともに生活習慣の改善や検診につながるような働きかけをしていくことが課題であると捉えている。

本研究の趣旨にご理解してくださり、ご協力を賜った埼玉大学准教授　七木田文彦様、埼玉医科大学総合医療センター教授　儀賀理暁様、がん教育推進連絡協議会　諸先生方にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。

令和６年度がん教育授業研究会（所沢市立椿峰小学校）アンケート結果

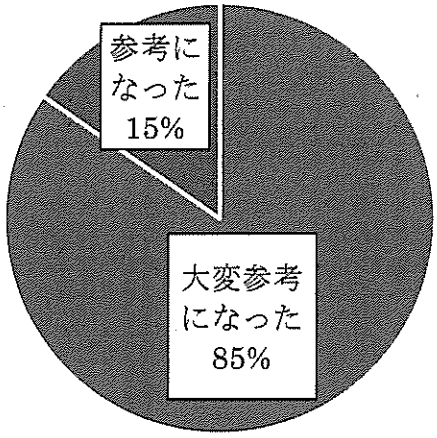
【本日の授業研究会の内容について】参加者総数７４名（一般 55、来賓・会場校等 19）

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者（提出５２名）	４４	8	0	0

※一般参加者５５名の内訳

校長３、教頭１、教諭９、養護教諭２１、指導主事２、外部講師関係１、学生１８

小学校授業研究会



○授業研究会（公開授業・研究協議等）について　※一部抜粋

・関係する教科、領域を横断しながら、健康教育に取り組まれている様子がよく伝わってきました。また、当事者や養護教諭が授業に参加することで、児童の学びが実感を伴ったものになることも、あらためて感じました。子どもたちが真剣に、かつ和やかに話し合う姿が印象的でした。いい子たち、いいクラスですね。（小学校・校長）

・がん教育の大切さ、必要性は十分理解しているが、がんにかかっている子どもや保護者等がいる場合など課題が大きいため、二の足を踏んでいた。本日の授業を参観して、進めてみようという意欲をいただいた気がする。本日はありがとうございました。（小学校・校長）

・児童が自分のこととして、自分の生活習慣をよく見つめ直している様子が伝わってきました。小学校段階として、内容を吟味して、よく工夫され、準備されていることがわかりました。少しずつよりよい生活習慣を身に付けていく児童が増えていくのではないかと思いました。本日はありがとうございました。（小学校・教頭）

・外部講師の活用の大切さ、がん教育における配慮を要する児童への対応、保健体育と学級活動のねらいや評価の違い等、学びがたくさんある授業研究会でした。ありがとうございました。（小学校・教諭）

・がん教育において、養護教諭として定期健康診断ともからめながら説明すること、T.T としての授業のやり方がとても参考になりました。タブレットの有効的な活用も参考になりました。（小学校・養護教諭）

・学級活動（２）で、クロームブックを活用し、家庭科、保健体育を基に子ども達が活発に交流する授業がとても興味深かった。また、すぐに実践できる内容がとても良かった。さらに、養護教諭と連携していたことが良かった。研究協議では、児童、家庭への配慮、外部機関との連携について考えることができた。（小学校・教諭）
・ICT を使用した授業を間近で見ることができ、参考になりました。ICT を使う部分と手書きの部分もあり、どのような使い分けをしているのか興味がありました。（小学校・養護教諭）
・自校で実施したことがなかったため、どのような授業で実践されているのか見せていただきたく、今回参加させてもらいました。がん教育とはなっていますが、特別なことが必要な訳ではなく、いかに子どもの日頃の生活に落とし込めるかが大切なんだなと思いました。また、がん教育と聞くと難しく感じてしまうのですが、日々の授業から取り組めることがあると分かり、実践してみたいと思いました。本日は貴重な機会をありがとうございました。（小学校・養護教諭）
・〝外部講師の方の授業〟というイメージが強かったがん教育でしたが、様々な教科での学びと並列して存在する〝要素〟のように感じました。気持ちの持ち方や経験した後の行動変容など、知識でない生きた言葉が子どもたちの心へ届いたのだと感じました。（小学校・養護教諭）
・これまでの他教科での学びとのつながりが多く、学校での学びがより良い生活習慣につながっているんだと実感できる内容だったと思います。明日からでもすぐに実践ができる今後のめあてを立てることも、とても良かったです。これまでの保健の授業、外部講師の方の講話もぜひ聞いてみたいです。（小学校・教諭）
・小学生からのがん教育とは、どのような導入から始めるのだろうと思っておりましたが、まずは自分の周りの大人や生活習慣等から結び付けていて、なるほどなと感じました。講師の方をお招きして、講話を聞いて終わりではなく、そこからさらに発展させ、自分の心とからだと向き合う授業が素晴らしいと感じました。（小学校・養護教諭）
・子どもたちが実現（継続していける）できる計画を一人一人が立て、共有もしっかりできていて流れがとてもスムーズだと感じました。他人事と捉えがちですが、今までの授業の積み重ねで一人一人が自分事として考えることができていた授業だったと思います。大変参考になりました。（小学校・養護教諭）
・がん教育の授業の中に、家庭科での取組内容が入ってくるとは思わなかったので、教科横断的な実践に感じました。また、タブレット端末を活用して各自のシートを共有できるという工夫も参考になりました。前時までにインプットした内容を自分で咀しゃくしアウトプットできていた点もすばらしかったです。（小学校・養護教諭）
・本市の「がん教育」の推進において、とても参考になる研究会でした。指導者からの助言、授業者の授業作りに対する考え方、生徒の活動の様を持ち帰り、管内の学校へお伝えできればと思います。ありがとうございました。（市町村教育委員会・指導主事）
・児童たちがこれまでの学習でしっかりと理解していたのが分かった。「がん」というテーマを楽しく学べていて良かったです。（外部講師関係者）
・ゲストティーチャーの方がいらっしゃる授業は初めて拝見したので、大変勉強になりました。児童のみなさんが一人ひとり食事や運動など自分が重視したい点を明確にもって計画を記入してお

り、初めに先生がおっしゃっていた「生活習慣も個性」という言葉が伝わって自分事に捉えられていると感じました。（学生）

・アンケートを実施したり、タブレットを使っていたが、そのタイミングや活用方法がすごくためになりました。がんはネガティブなイメージがある中、笑顔で明るくふるまっていて、その様子が子ども達にも伝わっているのが分かりました。また、T.Tの授業で、養護教諭がどのように立ち振るまっているか知れてよかったです。（学生）

【学校と外部講師が連携した「がん教育」の実施状況】　※一部抜粋

・がん専門医を講師に招き、講演をしてもらいました。ただ、時間の確保が難しいのが現状です。１～２時間くらいでできる実践例などがあれば見てみたいです。（小学校・養護教諭）

・今年度初めて、県立がんセンターのDr.をお招きして、６年保健の授業でがん教室を実施します。（小学校・養護教諭）

【がん教育についての提案、意見、感想等】　※一部抜粋

・２人に１人ががんになる時代。取り組む意義はあると思った。（小学校・校長）

・これまでの準備等、おつかれ様でした。「がん教育」の大切さについて改めて実感しました。（小学校・教諭）

・小学校においてはがんももちろんであるが、結局、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病も同じように指導が必要であると考える。他の病も同じように大切である。（小学校・教諭）

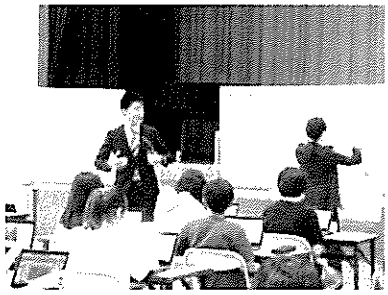
・何時間も「がん」の授業に変更しなくてもよい、どの学校でも行える授業を考えたいと思いました。（小学校・養護教諭）

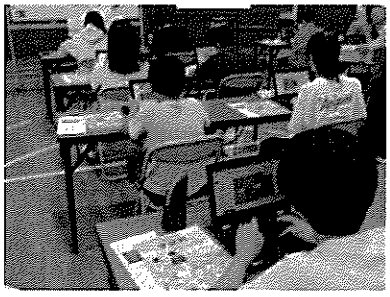
・がん教育の大切さを改めて学びました。自校でも取り組んでみたい。外部講師の在り方が素晴らしかったです。ありがとうございました。七木田先生のお話がとても分かりやすく共感しました。（小学校・教諭）

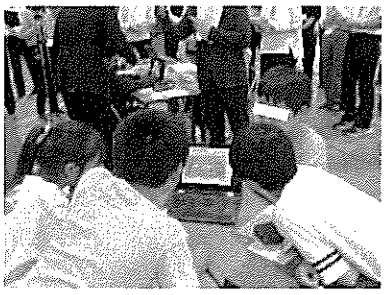
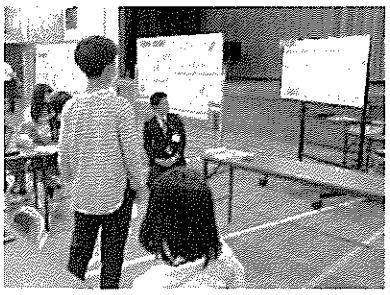
・身近にがん患者がいる、もしくは本人ががんになった児童がいるクラス等に向けた具体的な対応方法をお聞きできてよかったです。「自分の心と体に目を向けてね」（学生）

・子どもたちが大人に囲まれて緊張しているはずなのに手が上がったり、話し合いを活発にしたり、ポジティブな声かけがあったりして、とても良いクラスだと思いました。（学生）

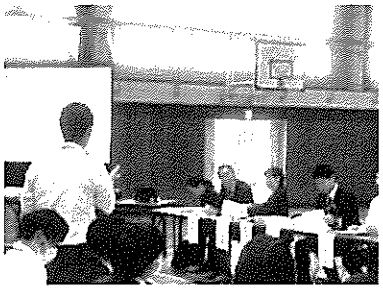
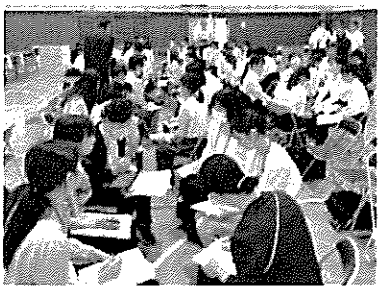
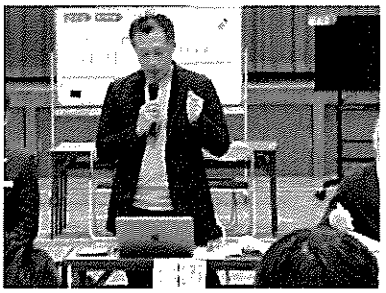
【授業の様子】





【全体会・研究協議の様子】

令和６年度埼玉県「がん教育」授業研究会（中学校）開催要項

１　趣　旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものへの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが求められている。

そこで、学校におけるがん教育の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

２　主　　催　　埼玉県教育委員会

３　期　　日　　令和６年１１月５日（火）

４　会　　場　　北本市立西中学校（北本市石戸９－２１０）

５　参加対象者　（１）南部教育事務所管内の公立中学校の教職員（保健体育科教諭、養護教諭、保健主事等）

※北本市立中学校は各校１名参加してください。

※北本市以外の南部教育事務所管内各市町の公立中学校から１名以上参加してください。

（２）北本市立小学校の教職員（教諭、養護教諭、保健主事等）

（３）県内各市町村教育委員会の指導主事等

（４）公立特別支援学校（中学部設置）の教職員（保健体育科教諭、養護教諭、保健主事等）

（５）埼玉県がん教育外部講師関係者

６　日　　程

（１）受　　付　１３時２０分～　（　体育館入口　）

（２）公開授業　１３時５０分～１４時４０分　（　体育館　）

（３）全 体 会　１４時５５分～１５時１５分　（　体育館　）

（４）研究協議　１５時１５分～１６時２０分　（　体育館　）

７　公開授業

学年	授業者	単元名
２年	富岡　亜祐美　教諭(T1) 小川　真由美　養護教諭(T2) 柳瀬　浩美　教諭(T3)	保健体育（保健分野） 「（１）健康な生活と疾病の予防」 (ｳ) 生活習慣病などの予防

8　指導者及び役員（埼玉県がん教育推進連絡協議会）

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	教育指導幹	大松　武晴
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指導主事	坂上三四郎
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指導主事	髙沢　聖子
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主査	平尾　勇樹
埼玉県教育局南部教育事務所	指導主事	熊田　大樹
北本市教育委員会学校教育課	主幹兼指導主事	宮本　翔
埼玉大学教育学部	准教授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教授	儀賀　理暁
白岡市立南中学校	校長	大山美智子
川口市立小谷場中学校	教諭	赤木　昂介
上尾市立大石中学校	養護教諭	川嶋　紅音
県立浦和東高等学校	校長	遠井　学
県立三郷高等学校	教諭	佐々木智子

9　参加について

・体調のすぐれない方は、当日の参加を遠慮するようお願いします。
・上履きと下足入れを持参してください。
・駐車場には限りがありますので、できるだけ乗り合わせか公共交通機関をご利用ください。
・会場校に来校する際には、以下を参照ください。

北本市立西中学校への御案内

※地図は省略しています。

・路線バスをご利用の場合は、北本駅西口バス乗り場②より
川越観光バス　荒井経由メディカルセンター行き「石戸小学校入口」下車　徒歩７分
をご利用ください。

保健体育科（保健分野）学習指導案

令和６年１１月５日（火）　第５校時
場所　北本市立西中学校　体育館
第２学年１組　２３名
指導者　教　諭　富岡 亜祐美（Ｔ１）
養護教諭　小川 真由美（Ｔ２）
教　諭　柳瀬　浩美（Ｔ３）

１　単元名　健康な生活と疾病の予防　（ウ）生活習慣病などの予防

２　単元について

近年、生徒を取り巻く社会環境や生活環境は大きく変化し、健康教育もそれに対応したものであることが求められている。

本単元における「健康な生活と疾病の予防」では、人間の健康は主体と環境がかかわり合って成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それにかかわる要因に対する適切な対策があることについて理解させる必要がある。

なかでも、我が国において重要な健康課題である「がん」は、中学校の保健体育でも取り扱われることとされ、がんの予防や回復に関する内容の充実が図られている。生涯のうち、がんは２人に１人がかかると推測される。健康教育においてがん教育を推進することは意義のあることである。がん教育を通して、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深め、自他の健康と命の大切さについて考えを深めさせたい。また、がんだけを特別に扱うのではなく、がんを扱うことを通じながら、他の様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等も含めた実践力を養うことを目指す。

３　生徒の実態

（１）知識及び技能

生活習慣病やがんについては、小学校までに概ね学習をしてきている。事前に実施したアンケート結果からも、がんは誰もがかかる可能性のある病気であり、早期発見が回復へのかぎとなることを理解できている生徒が多い。しかし、予防するための望ましい生活習慣や早期発見のための手立て等について具体的に理解できていない生徒もいると考えられる。

（２）思考力、判断力、表現力等

ワークシート等に発問に対する自己の課題を書くことができる生徒は多い。その一方で、グループでの話合い活動では、積極的に自分の意見を述べたり、家族や身近な人と健康に関する話合いを通して、自らの考えを広げたり健康課題に対する多様な解決方法を考えたりすることが苦手な生徒もいる。

（３）学びに向かう力、人間性等

明るく、活発な生徒もいるが、保健の学習に積極的に取り組むことが苦手な生徒もいる。しかし、本学習ではがんに関わる当事者からの講話が事前指導で行われるため、本

単元の学習に関心を持って臨むことができると考えられる。また、自分の健康のために望ましい生活習慣を確立しようとしたり、検診を受けようとしたりしてよりよい人生を送ることができるように考えられる生徒もいる。

＜事前アンケートの結果（令和６年９月実施・対象：第２学年３９名）＞
がんについての以下の質問について、当てはまるものに〇をつけてください。

	質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	２３	１６	０	０
2	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	２２	１６	０	１
3	自分はがんにならないと思う。	０	１３	１６	１０
4	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	３２	４	２	１
5	日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行う等健康な体づくりに取り組もうと思う。	１６	１９	４	０
6	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	１４	１８	５	２
7	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	６	８	２１	４
8	がんになっても生活の質を高めることができる。	２	１４	１５	８
9	がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	１５	２０	３	１
１０	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	１０	１９	９	１
１１	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	３３	３	１	２
１２	長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	２６	１１	１	１

	質問	正しい	誤り
１３	がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	３８	１
１４	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	３８	１
１５	がんは日本人の死因の第２位である。	３３	６
１６	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすること等によって、予防できるがんもある。	３６	３
１７	早期発見すれば、がんは治りやすい。	３５	４
１８	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	２	３７

4　教師の指導観

（1）知識及び技能

今日、がんは２人に１人がかかるとされる身近な病気であるが、本学級には自分はがんにかからないと感じている生徒もいる。そこで、がんは誰にでもかかるリスクのある病気であることを理解させるとともに、適切な生活習慣を実践することでがんのリスクを低減することができ、検診による早期発見が回復につながることも理解させたい。

（2）思考力、判断力、表現力等

がん及び様々な生活習慣病とその予防について、学んだことを自らの生活と照らし合わせるとともに、仲間同士で解決方法を話し合わせ、これからの実生活の質を高められるよう指導を展開していきたい。

（3）学びに向かう力、人間性等

がん及び様々な生活習慣病は、適切な生活習慣や検診によって予防でき、早期発見につながることを理解させるとともに、自分らしい生き方や健康と命の大切さについて考えを深めさせたい。

5　単元の目標

（1）健康な生活と疾病の予防について、理解できるようにする。　＜知識及び技能＞

（2）生活習慣病の予防及びがんの予防等について、課題の解決方法とそれを選択した理由等を他者と話し合ったり、ノート等に記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。　＜思考力、判断力、表現力等＞

（3）生活習慣病等の予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。　＜学びに向かう力、人間性等＞

6　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起きる疾病であることや不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まること、生活習慣病を予防するには適度な運動を定期的に行い、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であり、適切な対策を講ずることにより予防	①生活習慣病と健康における事柄や情報等について、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりするとともに、自他の課題について発見したことをノートに記述したり伝え合ったりしている。 ②生活習慣病及びがんの予防や検診の大切さについて習得した知識を活用し、自他の生活と比較したり、健康の保持増進をする方法を考えたりすることができる。また、ノートに記述したり他者と伝え合っ	①生活習慣病などの予防と健康に関心を持ち、課題の解決に向けた学習に自主的に取り組もうとしている。

できることについて、理解したことを発言したり記述したりしている。 ②がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること、また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けること等が有効であることについて、理解したことを発言したり記述したりしている。	たりしている。	

7　単元の指導計画と評価の計画（全３時間）本時は○印

時	学習のねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
1 生活習慣病の起こり方とその予防	Ⅰ　ねらい ・不適切な生活行動は、様々な生活習慣病のリスクを高めるとともに、それらの予防には健康的な生活習慣を身に付けることが有効であることについて理解できるようにする。また、生活習慣病と健康における事柄や情報等について、自他の課題について発見したことをノートに記述したり伝え合ったりすることができるようにする。 Ⅱ　学習活動 1　将来の自分の身体の健康について考える。 2　様々な生活習慣病とその主な原因について知る。 3　不適切な生活行動とその改善方法について個人で考えたことをグループで共有する。 4　自分の生活を振り返り、健康的な生活習慣について整理する。 主たる学習内容（知識） ・生活習慣病は、日常の不適切な生活行動が要因となって起こる病気であり、その予防には適度な運動をしたり、食事の量や頻度、栄養バランスを整えたり、喫煙や過度の飲酒をしたりせず、口腔の衛生を保つことなどで予防できること。	①	①		観察・ワークシート

2 がんとその予防について	Ⅰ　ねらい ・がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること、また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けること等が有効であることについて、理解したことを発言したり記述したりすることができるようにする。 Ⅱ　学習活動 1　がんに対するイメージを考える。 2　資料をもとに、がんの特徴や予防方法について考え、グループで話合いをする。 3　資料で読み取った内容について、グループで意見をまとめて発表する。 主たる学習内容（知識） ・がんは、がん細胞が増殖することで引き起こされる病気であり、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることががんの予防に有効であること。	②		①	観察・ワークシート
③ 生活習慣病及びがんの早期発見とその回復について	Ⅰ　ねらい ・生活習慣病及びがんの予防や検診の大切さについて、習得した知識を活用し、自他の生活と比較したり、健康の保持増進をする方法を考えたりすることができる。また、ノートに記述したり他者と伝え合ったりすることができるようにする。 Ⅱ　学習活動 1　がんと生活習慣の関係や検診の重要性について、前時までの学習内容の確認をする。 2　家族にどのようにして検診を勧めたらよいか考える。 3　これまでの学習を踏まえて、生活習慣病やがんを予防するために自分の生活で実践したいことや家族にしてほしいことなどを考える。		②		観察・ワークシート

8　本時の学習と指導（3／3）

（1）ねらい

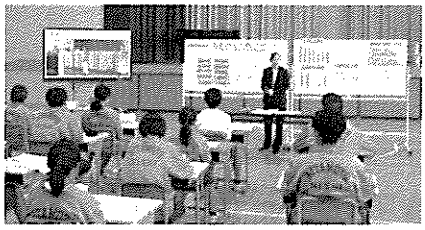
生活習慣病及びがんの予防や検診の大切さについて習得した知識を活用し、自他の生活と比較したり、健康の保持増進をする方法を考えたりできるようにする。また、ノートに記述したり他者と伝え合ったりすることができるようにする。

＜思考力、判断力、表現力等＞

（2）準備

ホワイトボード、電子黒板、ワークシート

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 （○指導　◆評価規準）
導入8分	1　前時までの学習内容の確認をする。	○生徒に発問を投げかけながらこれまでの既習事項について確認をし、ロールプレイングで必要となる内容は、教師から補足を入れて説明をする。（T1・T2）
	2　本時の学習内容を確認する。	○生徒の発言をキーワードとして板書する。 ○諸外国とのがん検診の受診率を比較したグラフを提示し、がん検診の対象年齢について触れながら、本時の学習内容への関心を高めることができるようにする。
	めあて：健康診断やがん検診の大切さについて、学習したことを活かして伝え合おう	
展開30分	3　ロールプレイングをする。	○場面設定について、母親の生活習慣に課題があることに生徒が気付くように説明する。 ＜場面設定＞ 健康には自信があり、がん検診に行ったことがない母親。
	・家族に検診を勧めるための説得方法を個人で考える。	○「検診を受けることがどうして大切なのか」について、根拠を示すように促す。その際に、ホワイトボードのキーワードを参考にして書くことを助言する。
	・4人グループでロールプレイングを行う。 実施順（生徒A～D） 子供役　母親役　観察者 ① A　B　C　D ② B　C　D　A ③ C　D　A　B ④ D　A　B　C	○ロールプレイングのお手本を示し、生徒の活動がスムーズに行えるようにする。（T2・T3） ○演技者と観察者に分かれ、仲間のロールプレイングを見て、勧め方で良かった点や改善点を伝え合うように指導する。 ◆生活習慣病及びがんの予防や検診の大切さについて習得した知識を活用し、自他の生活と比較したり、健康の保持増進をする方法を考えたりできる。また、ノートに記述したり他者と伝え合ったりすることができる。（ワークシート・観察）【思考・判断・表現】

	 ・ロールプレイングを振り返る。	△「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て ・がんの予防や早期発見方法について確認させる。 ◎「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒の具体的な姿 ・学習したことをもとに、自他の生活を振り返りながら考えたことを記述したり、他者と伝え合ったりしている。 ○ロールプレイングのやりとりで困ったり、悩んだりしたことを聞き取る。
まとめ12分	4　本時の学習のまとめをする。 5　単元を通しての振り返りをする。 	○健康的な生活習慣を送ることや早期発見が病気の予防や悪化を防ぐこと、生活習慣病やがんと診断されても、適切に治療すれば充実した生き方へつながることを説明する。 ○生活習慣病やがんを発症したときにどう向き合うのか、自分の中で考えを深めることができるようにする。 ○健康を意識した生活や検診の大切さについて考えることができるようにする。 ○本単元や事前学習を通して、「生きること」や「命の大切さ」について主体的に考えたりするように促す。 ○次時の事後学習について説明をする。

9　板書計画

健康診断やがん検診の大切さについて、学習したことを活かして伝え合おう

○前時までの復習 生徒から出たキーワードをまとめる。	○受診率のグラフ	○伝え合いのポイント ○学習のまとめ

１０　ワークシート

健康な生活と疾病の予防

２年　　組　　番　名前

■がん検診の受診をすすめよう！

あなたは北本家の子どもです。お母さんにがん検診を受けたことがあるか聞くと、「一度も行ったことがない。」という返事が…。あなたは、生活習慣病やがんについて授業で学習したばかりです。なんとかお母さんにがん検診に行ってもらうように説得をしましょう。ただ「行ってほしい！」という思いだけでなく、*「なぜ検診を受けることが大切なのか」*がお母さんに伝わるように、根拠を加えて考えてみましょう。

名前	キタモト　トマコ 北本　とま子
生年月日	昭和50年6月21日 （49歳）
職業	パート

○健康には自信があり、大きな病気にかかったことがないのが自慢。
○そのため、がん検診を受ける必要性を感じていない。
○「がん検診に行ってがんが見つかったらどうしよう」という不安がある。
○たばこは吸わないが、毎日お酒を飲む。
○塩辛いものや脂っこいものが大好き。
○大の運動嫌いで、肥満気味である。

①「うちの家系にはがんにかかった人はいないからがん検診に行かなくて大丈夫。」

②「毎年、健康診断は受けているからがん検診は必要ないわ。」

③「体調の変化を感じたらがん検診に行けば大丈夫よね？」

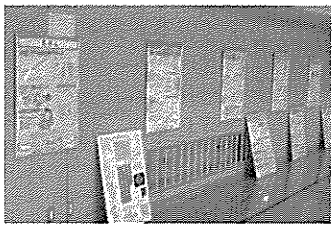
④「パートと家事の両立が忙しくて、がん検診に行く暇がない。」
⑤「大きな病気にかかったことがないし、健康には自信がある！」
⑥「がんにならないために、お母さんが今できることを教えてほしい。」
⑦「がんっていったいどんな病気なの？」
⑧「若いときからこの生活習慣で過ごしてきて、なにも問題がないよ。」
⑨「どうしてそんなにがん検診に行ったほうがいいの？」
⑩「がん検診に行ってがんが見つかったらこわいから、がん検診に行く勇気がない。」

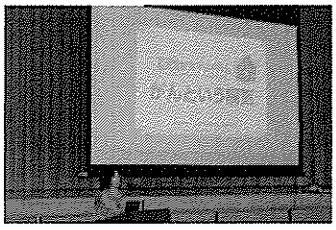
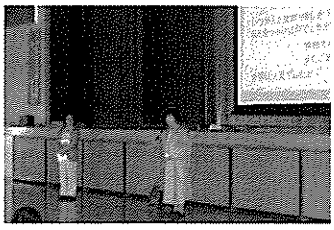
■学習のまとめ　健康診断やがん検診の大切さについて、学習したことを活かして伝え合おう

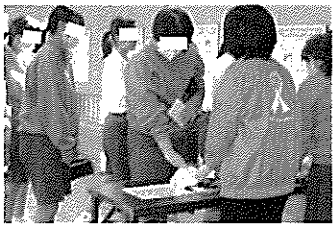
１１　外部講師の活用

（１）事前学習

日時	学習内容・活動	依頼した外部講師
１０月１日（火） １３：２５ ～１４：１５	講義「知ってほしい　がんのこと」 内容 ①ピンクリボンの会の活動紹介 ②がんについて（文部科学省資料使用） ③がん体験談（ピンクリボンの会メンバー２名） ④「IPU」、触診モデル体験 ⑤大切な人や家族へのメッセージカード記入	ピンクリボンの会きたもと代表　角田かすみ　氏 （協力者として、北里大学メディカルセンター看護部師長補佐　乳がん看護認定看護師　堀川正代　氏も帯同）

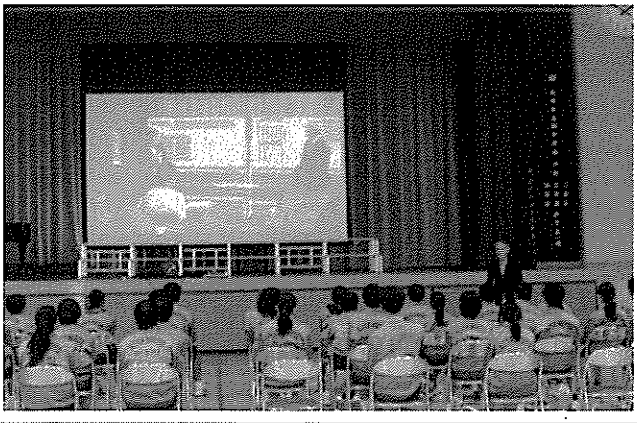
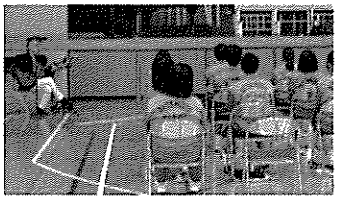




（２）事後学習

日時	学習内容・活動	依頼した外部講師
１１月１２日（火） １３：５０ ～１４：４０	内容 ①がんとその予防 ②緩和ケア現場の実際 ③在りたい自分を考える	埼玉医科大学総合医療センター緩和医療科・呼吸器外科教授　儀賀　理暁　氏

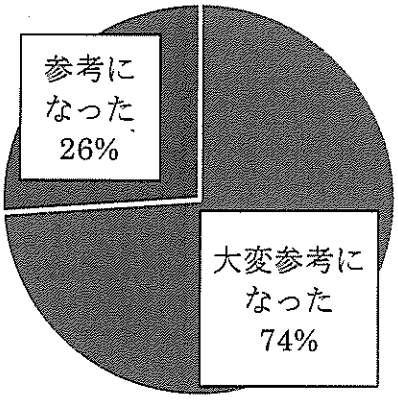
令和６年度がん教育授業研究会（北本市立西中学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】参加者総数７０名（一般 49、来賓・会場校等 21）

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者（提出４６名）	３４	１２	０	０

※一般参加者４.９名の内訳：校長３、主幹教諭１、教諭１２、養護教諭１２、指導主事１、外部講師関係者１、学生１９

中学校授業研究会



○授業研究会（公開授業・研究協議等）について　※一部抜粋

・がん教育を切り口にして、自己の健康増進に主体的に取り組むことができる人を育成することの意義を考えることができました。（中学校・校長）

・がんという一つのものから様々な学びにつなげていくことができることが非常に勉強になりました。学びを行うことで生徒たちの希望を与えることができると感じました。本校でも実践していきたいです。本日はありがとうございました。（中学校・主幹教諭）

・本時の内容だけでなく、前回までの内容について丁寧に振り返りをされていたため、生徒もより理解を深められたのではと感じた。また、家庭内での会話という設定のグループワークも実際に家族と話すきっかけにつながり、大変参考になった。（中学校・養護教諭）

・ロールプレイングがもたらす効果が大きいと学びました。協議会では立場の異なる先生方の感想を聞いて大変参考になりました。〝大人へのがん教育〟をなぜしないのかという言葉にドキっとしましたが、子どもたちの未来の健康の為に、もと教材研究をしたいと思いました。（中学校・養護教諭）

・中学校保健体育科として、ここまで丁寧にがんについて子どもたちに教えることができていませんでした。掲示物を見ても、乳がんについてのポスターやピンクリボンの活動、他クラスのプリントなど、参考になる・もっと詳しく学びたいと思う掲示物が多く、大変勉強になりました。富岡先生の授業時の発問も多く、そして分かりやすかったです。（中学校・教諭）

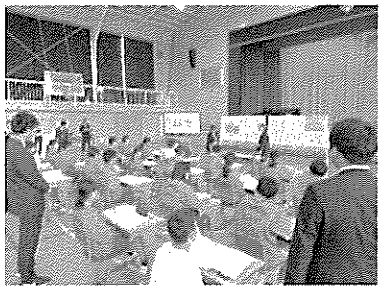
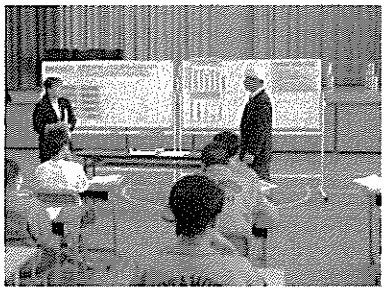
・中学校の授業を見させていただく貴重な機会をありがとうございました。この授業につなげるべく指導を小学校でどのようにやっていくか、勉強したいと思いました。現状としては、生活習慣の話をするときに、さらりとがんにふれている程度なので、反省しました。（小学校・養護教諭）
・沢山の掲示物、参考になりました。本校でもやってみたい内容がありました。授業の流れがよく、本時のねらいに戻ることができ、生徒に身についたと思います。（中学校・教諭）
・生活習慣病やがんについてインプットした基礎知識を「伝える」ことで更に主体的に考える方法が参考になりました。この単元の授業までも、ピンクリボンや学校保健委員会など様々な教育課程で実施できることも参考になりました。（中学校・養護教諭）
・保健の研究授業を見る機会が少なかったので、とても参考になりました。検診のすすめ方の指導法についてたくさん学べました。ありがとうございました。（中学校・教諭）
・子どもが自分の親のために検診をすすめるだけでなく、がんのリスクを減らす為に自分のこととして考えられるような場面も多く、参考になった。（中学校・教諭）
・生活習慣、検診の大切さが伝わる授業でした。この授業までの事前指導が生徒に身についているからか、授業の展開もスムーズで感心しました。体育だけでなく、保健委員会、給食委員会もかかわっていて学校でがん教育に取り組めていてすばらしいと思いました。（中学校・養護教諭）
・予防や検診の大切さ、そして早期発見・早期治療の大切さについて富岡先生の熱心なご指導で生徒が自分も家族も周りの人を守っていくための行動にすぐうつせるような授業でした。また、学校保健委員会やがん予防給食など、授業以外でも生徒の興味をひく取組がされていてすばらしいと感じました。（中学校・養護教諭）
・授業ありがとうございました。三大疾病の１つであるがんについて、風邪やケガと違い、見えにくい、気づきにくいからこそ、認識した時には既に悪化しているおそろしい病気だということを中学生のうちに知ることの大切さを実感しました。教科横断的な学習を取り入れつつ、他視点での知識・経験を味わせれたらなと思うことができました。（中学校・教諭）
・本日はありがとうございました。ロールプレイングでは、生徒一人一人が自分の言葉で工夫し、一生懸命に取り組む姿が印象的でした。〝今と未来の自分のために〟という言葉も印象的で、自校に持ち帰り広げられたらと思います。（中学校・養護教諭）
・ロールプレイングの活動の中で、キーワードを使って伝えることはもちろん、日常生活と結び付けて伝えている生徒もいて、理解した上で、日常に落とし込むことができていると感じました。前回の復讐の時間で、がんについてグラフ・数値化したものを使って、とてもわかりやすく、生徒の伝え方についてとても参考になりました。ありがとうございました。（中学校・教諭）
・〝がん教育〟というとハードルが高いが、生活習慣や感染症と結びつけると生徒も学びに向かいやすくなると感じました。また、掲示物にあった給食コラボや大切な人へのお手紙で、より身近に感じられると思いました。本校は特別支援学校なので、そのような身近なところから取り入れていけたらいいなと思いました。ありがとうございました。（特別支援学校・養護教諭）
・がん検診を勧めるロールプレイは、とても楽しかったです。思春期の生徒の皆さんが、本当にご家族に伝えてくれたらと思いました。一度でもロールプレイを通して経験したことで、すんなりとご家族に伝えられたらいいですね。（外部講師関係者）

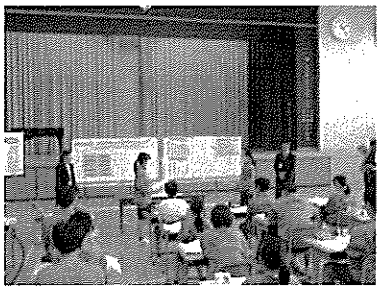
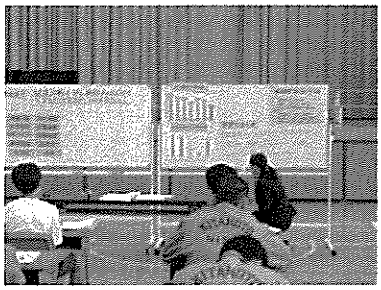
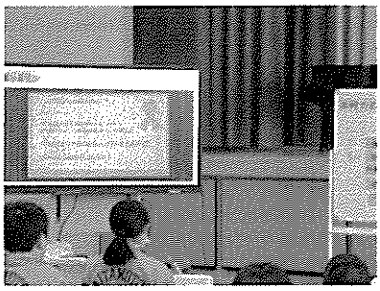
・３人で行うティームティーチングの授業を初めて見学し、各立場から授業に参加することでスムーズな授業進行や自己表現への促しとなっていたと感じました。自分事として考えにくいがんについての内容を「家族」「支える側」というキーワードを使うことで今と結びつけ学びを深められていると感じました。（学生）
・授業全体を通して生徒主体で行われていると感じました知識を伝える・確認する場面でも生徒から出た言葉を紡いでいたところが良いと感じました。また、ロールプレイングでは、１分３０秒という時間がちょうどよく、４人グループで行うことで観察者ができて、活発に学べると感じました。（学生）

【学校と外部講師が連携した「がん教育」の実施状況】　※一部抜粋
・医師を招き、講演をしていただいた。（中学校・教諭）
・各校で違いますが、経験者のエピソードをお話いただく等。（市町村教育委員会・指導主事）

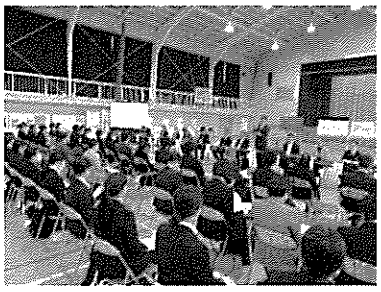
【がん教育についての提案、意見、感想等】　※一部抜粋
・ご家族によっては、がんに対する思いが違っている可能性があるので、教育に取り入れることは難しいイメージがありましたが、中学生が学習を通じて、がんに対するイメージが変わっていくのであればとても重要な学習だと感じました。（中学校・主幹教諭）
・研究協議含め、大変勉強になりました。養護教諭という立場から、もっと積極的にがん教育に携わっていかなければならない立場であることを実感しました。ありがとうございました。（中学校・養護教諭）
・富岡先生をはじめ、西中学校の先生方、本日迄のご準備、本当にお疲れ様でした。自分自身、子どもたちに伝えたいことが今日の授業を通してはっきりと分かりました。ありがとうございました。（中学校・教諭）
・家族の中にがんになった生徒がいた場合、配慮が必要だなと思いました。（中学校・養護教諭）
・「情報を伝えること」に特化するのであれば、得た知識をパワーポイントなどでプレゼンテーションし合うこともおもしろいのではと思いました。（中学校・教諭）
・中学生の年齢だと、どうしても他人事として考えてしまう生徒が多いと思います。いかに日常に落とし込み、自分だけでなく、家族等他人に伝えていくかが保健の難しさでもあり大切なことだと思います。今回の授業を参考にさせていただき、来年に生かしたいと思います。（中学校・教諭）
・がん教育の一環として、大切な人へのメッセージやアンケートなど、様々な取組をしていて、がんへの意識が上がりやすく、いいと思った。（学生）
・ロールプレイングの例、とても面白く、分かりやすかったです。指示が的確で、生徒たちが考えやすい発問だったと感じました。ありがとうございました。（学生）

【授業の様子】

【全体会・研究協議の様子】



令和６年度埼玉県「がん教育」授業研究会（高等学校）開催要項

１　趣　旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

２　主　　催　　埼玉県教育委員会

３　期　　日　　令和６年１０月３０日（水）

４　会　　場　　県立杉戸高等学校（北葛飾郡杉戸町清地１－１－３６）

５　参加対象　（１）県内公立高等学校・特別支援学校の教職員（保健体育科、養護教諭、保健主事等）

※東部地区開催のため、東部地区の学校においては積極的な参加について、御配意願います。

※採用後１～４年目で、毎年開催される本授業研究会にこれまで一度も参加したことのない者（科目保健授業担当者）の参加について、御配意願います。

（２）埼玉県がん教育外部講師関係者

６　日　　程

（１）受　　付　　１３時１５分～　　（場所：職員玄関（２階））
（２）公開授業　　１３時４５分～１４時４０分　　（場所：大講義室（３階））
（３）全 体 会　　１４時５５分～１５時１５分　　（場所：大講義室（３階））
（４）研究協議　　１５時１５分～１６時３０分　　（場所：大講義室（３階））

７　公開授業

学年	授業者	単元名
１年	大塚　真澄　教諭	保健体育科（科目保健） 「（１）現代社会と健康」 （ウ）生活習慣病などの予防と回復

8　指導者及び役員（埼玉県がん教育推進連絡協議会）

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	教育指導幹	大松　武晴
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指導主事	坂上三四郎
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主事	金井　孝太
埼玉大学教育学部	准教授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教授	儀賀　理暁
NPO法人くまがやピンクリボンの会	代表理事	栗原　和江
白岡市立南中学校	校長	大山美智子
県立三郷高等学校	教諭	佐々木智子
県立蕨高等学校	養護教諭	工藤　由未
県立東松山特別支援学校	養護教諭	津久井未緒
上尾市立大石中学校	養護教諭	川嶋　紅音

9　参加について

・体調のすぐれない方は、当日の参加を遠慮するようお願いします。
・上履きと下足入れを持参してください。
・駐車場に空きがありませんので、公共交通機関をご利用ください。
・会場校に来校する際には、以下を参照ください。

県立杉戸高等学校への御案内

※地図は省略しています。

保健体育科（科目保健）学習指導案

令和６年　１０月３０日（水）第５時限　大講義室
第１学年４組　　計４０名
指導者　埼玉県立杉戸高等学校　教諭　大塚　真澄

１　単元名　（１）現代社会と健康　（ウ）「生活習慣病などの予防と回復」

２　単元について

本単元「現代社会と健康」では、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。したがって、健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識を持ち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。また、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できる必要がある。

また、本単元は、以下に挙げる内容を中心として構成されている。

・我が国において現代の健康課題が見られること。
・健康の考え方が変化してきていること。
・健康の保持増進には健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること。
・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、それに対応した対策が必要であること。
・生活習慣病などの予防と回復には調和のとれた生活の実践とともに早期発見、治療及び社会的な対策が必要であること。
・喫煙、飲酒、薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であること。
・精神疾患の早期発見や罹患後の対策が必要であること。

以上の点を踏まえた上で、一昨年度から高等学校において年次進行で実施している新学習指導要領の「がん教育」の内容については、(ウ)生活習慣などの予防と回復で学習する。本校の保健の年間指導計画上、本来であれば１学期に行う授業内容であるが、今年度は、埼玉県の「がん教育等外部講師連携支援事業」の実施時期に合わせ、１学期に生活習慣病の予防(一次予防)や生活習慣病の早期発見・早期治療(二次予防)、生活習慣病に対する社会的な対策についての学習を行った上で、２学期に生活習慣病の中で、「がん」に特別に焦点を当て、４時間展開で授業を行うこととした。その際、がんについて、肺がん、大腸がん、胃がん、乳がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず、細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにするとともに、がんの回復については、手術療法、化学療法(抗がん剤など)、放射線療法などの治療法があるということ、そして患者や周囲の人々の生活の質(QOL)を保つことや緩和ケアの重要性についても適宜触れるようにする。また、がんの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解できるような授業を展開していく。

3　生徒の実態

埼玉県立杉戸高校は、男子 498 名、女子 321 名、合計 819 名の生徒が在籍する男女共学普通科の高等学校である。１学年は、男子 165 名、女子 112 名、合計 277 名の生徒が在籍している。この度のがん教育における研究授業の対象学級は、第１学年４組で、男子２４名、女子１６名の合計４０名の生徒が在籍している。体調不良等で欠席する生徒や遅刻して登校する生徒が少なく、健康管理に気を付けながら、日々、前向きな学校生活を送ることができている。保健の授業においては、授業態度は良好で、真面目に授業に取り組んでいる生徒が多い。しかし、主体的に発表する生徒と、誤答を恐れて発表に消極的な生徒との格差が出ている。これまでの経験で、自分がリーダーとなり、先頭で集団を引っ張ってきたという経験が乏しい生徒が多く、誰かが引っ張ってくれるのを待ち、真面目にその意見や行動についていく経験を積んできた生徒の方が多い傾向にある。

生徒たちの知識の定着を図る際に、図や写真等の視覚的教材を多く用いたり、実生活に結びつけられるような発問を用いたりしながら、授業を展開している。真面目な性格の生徒が多く、一斉授業では真剣にノートを取り、知識の定着を図るとともに、その知識をこれからの生活のどの部分に活かしていきたいか考えることは得意であるが、その考え出したことを人前で表現することに苦手意識を持っている生徒が多い。そのため、得た知識を自分の日常生活や自分の将来、そして、自分の周りの人たちの生活に活かすためにはどうしたら良いか考え、周りの人たちに自分自身の考えを発表したり聞いたりする中で、さらに知識を深め、知見を広げることができる授業を展開していきたいと考えている。

（１）知識及び技能

生活習慣病についての基礎知識はあるが、がんの発生要因やがんの治療方法、緩和ケアについて、そして、検診や社会的対策について等の知識量は、生徒間で大きく差がある。

（２）思考力・判断力・表現力 等

資料や情報を読み取る能力が高く、学んだことについて自分の言葉でまとめることが得意な生徒が多い。また、質問や発問に対して、熟考する生徒も多い。しかし、そのまとめたことを他の人も理解できるように発表・発信する力は、生徒間で大きく差がある。

（３）学びに向かう力・人間性 等

発問や質問に対しての興味が深く、話合い活動に積極的に取り組むことができる生徒が多い。また、重要な箇所を自ら判断してメモを取る生徒も多い。しかし、話合い活動や自分で考えて導き出した答えを他の人へ伝えたり、発表する際に誤答を恐れて発表に消極的になったりする生徒が多い。

今年度の夏休み中に、１学年の生徒にアンケート調査を行った。その回答を以下にまとめる。設問の他に、自由記述欄を設けたところ、以下のような質問が出てきた。生徒たちの疑問を大切にしながら、今後の授業に活用していきたい。

《アンケート・自由記述欄より》

・がんの種類は何種類あるのか。	・がんがなくなる世界はどんな世界になるのか。	
・野生動物のがんの死亡率	・がんにならないために一番にやるべきこととは。	
・がんになりやすい年齢は何歳か。	・がんに効く食べ物は何か。	・がんになる人はなぜ多いのか。
・がんの後遺症について。	・がんの転移の原因について。	・予防策や罹患した時にすべきことは。
・がんの遺伝の確率はどれくらいか。（何等親以内か）	・どのがんが死亡率が高いのか。	
・男性でも乳がんになるのか。	・がんの母親に、どのような言葉をかけると良いか。	

事前アンケートの結果等（令和６年９月実施・１学年全体 277 名の生徒からの調査結果）

(1)がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	そう思う	どちらかと いえばそう思う	どちらかと いえばそう思わない	そう思わない
がんの学習は、健康な生活を送るために重要なものだと思う。	239	37	1	0
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つものだと思う。	239	38	0	0

(2)がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	正しい	誤り
がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	275	2
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	275	2
がんは日本人の死因の第２位である。	98	179
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	275	2
早期発見すれば、がんは治りやすい。	275	2
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	9	268
がんの治療法には手術治療しかない。	34	243
がんの痛みは我慢するしかない。	25	252

(3)がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	そう思う	どちらかと いえばそう思う	どちらかと いえばそう思わない	そう思わない
自分はがんにならないと思う。	10	54	101	112
将来、たばこは吸わないでいようと思う。	244	24	6	3
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	170	101	5	1
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	157	107	13	0
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	46	86	72	73
がんになっても生活の質を高めることができる。	82	97	69	29
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	194	80	3	0
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	140	110	19	8
家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	266	10	1	0
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	225	46	6	0

事前アンケートの結果等（令和６年９月実施・１年４組４０名の生徒から調査結果）

(1)がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	そう思う	どちらかと いえばそう思う	どちらかと いえばそう思わない	そう思わない
がんの学習は、健康な生活を送るために重要なものだと思う。	35	5	0	0
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つものだと思う。	37	3	0	0

(2)がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	正しい	誤り
がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	40	0
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	40	0
がんは日本人の死因の第２位である。	17	23
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	39	1
早期発見すれば、がんは治りやすい。	40	0
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	2	38
がんの治療法には手術治療しかない。	7	33
がんの痛みは我慢するしかない。	5	35

(3)がんについての以下の質問について、当てはまるものに○を付けてください。

	そう思う	どちらかと いえばそう思う	どちらかと いえばそう思わない	そう思わない
自分はがんにならないと思う。	2	8	19	11
将来、たばこは吸わないでいようと思う。	33	4	3	0
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	25	14	1	0
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	25	12	3	0
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	9	13	13	5
がんになっても生活の質を高めることができる。	13	12	11	4
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。	30	9	1	0
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	17	15	5	3
家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	40	0	0	0
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	34	5	1	0

4　教師の指導観

（1）知識及び技能

がん教育を通して、生活習慣病の様々な疾病の予防や調和のとれた生活習慣の確立ができるように、食事や運動、休養等の日常生活を改善していくために必要な知識を得ることができるようにしたい。また、がんを身近な病気として捉え、疾病の予防や早期発見・早期治療、検診の実施等への理解を深め、自分のライフプランと重ねた時に両立するための方法を見付けることができるような授業を展開したい。

（2）思考力、判断力、表現力等

様々な情報が飛び交う情報社会で、正しい判断がより求められる。我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康の保持増進のための対策の在り方を理解した上で、個々人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいた課題解決方法を柔軟に思考・判断・表現することができるように、アクティブラーニング（がんから命を守るプレゼンテーション）を展開していきたい。

（3）学びに向かう力、人間性等

今回の授業内容を個々の実生活に積極的に活かすために、知識・情報を一斉授業中の学習内容だけではなく、他生徒の考えやプレゼンテーションを聞く中で、主体的に得ることができるように指導していきたい。また、生徒たちが誤答を恐れ、消極的な活動になることがないように、肯定的な言葉かけを行い、生徒たちの前向きな取り組みや適切な理解を促していきたい。

I　学習(指導)内容の明確化

学習内容の理解を促し、考えを深めることができるように、保健の学習としては4時間扱いとするが、LHR の時間を使い、外部講師による講演会等の事後学習を行う。また、1時間目の前に、視覚的教材を用い、がんについての基礎知識に触れる。

・1時間目：がんの基本的な知識(種類、発生要因、我が国の状況、予防方法、治療方法、緩和ケア)の習得を図る。

・2時間目：がんの予防、がん検診、治療と仕事の両立についてグラフや資料から読み取るとともに、話合いを通して理解を深める。また、養護教諭と連携し、がんの現状と検診の大切さを通して自他の健康のために、どのようにがんと向き合いながら生活していくべきか考え、実生活における実践力の向上を図る。

・3時間目：1、2時間目の授業を経て得た知識や情報をもとに、ある対象となる人物に対して、どのようにしたら、がんから健康を守り、より豊かな生活を送ることができるか説得できるようなプレゼンテーション資料を作成する。作成物は、模造紙での掲示物や Google スライド・PowerPoint 等を活用した ICT 教材、CM 等から自ら選択し、同じテーマごとグループ分けして進める。また、授業冒頭に知識の習得と復習を目的とした小テストを実施する。

・4時間目：3時間目以降で作成した資料を使い、違うテーマや違う視点から資料を作成した生徒でグループを作り、グループ内で1人ずつプレゼンテーションを行う。その際、プレゼンターが振り返りをできるように、オーディエンスは評価シートを作成し、フィードバックする。
※作成資料は、評価対象物として、全員提出する。

II　基礎的・基本的な知識の習得と知識を活用する学習活動の実践

1時間目の授業では、一斉教授型の授業展開で、がんに関する基本的な知識の習得を目指すとともに、自らの生活を振り返り、自らの課題や自分の将来で必要となること(予防・がん検診・治療・仕事との両立等)を考える機会にしたいと考えている。

2時間目の授業では、1時間目の授業で得た基礎的な知識をベースとし、さらに自分たちの生活にリンク付けて考えることができるように、養護教諭からがんの現状やがんに関する実体験を伝えてもらい、実生活における実践力の向上に繋げていきたいと考えている。

3、4時間目の授業では、ICTや資料等を用いたアクティブラーニング型の授業展開で、がんについての知識や課題、目指すべきことを他人にも理解できるようにプレゼンする力を養いたいと考えている。様々な情報の中から、どの切り口でがんと向き合おうとするか、取捨選択しながら知識を獲得したり、同じテーマでグルーピングしたりすることで、知識や学びを深めながら、プレゼン資料を作成していく。また、発表時には、違うテーマや違う切り口でプレゼン資料を作成した生徒でグルーピングし、発表することで、自分や同じテーマで考えた生徒との間では獲得できなかった知識や情報を得ることができ、多様な視点や観点から、がんについて一人一人が考える時間にしたいと考えている。

III　学習内容を主体的に取り組ませるための教材の工夫

・ICT教材の活用

本単元では、PowerPointを活用して授業を展開する。画面の中で、説明文章だけではなく、映像や様々な図、資料を生徒たちに提供することができることで、生徒の理解の促進に繋がっていると考えられる。また、Googleフォームも活用し、小テストを行うことで、知識の定着も併せて行うことができる。また、ICTの活用は、視覚的に分かりやすく、イメージしやすい資料を提供できたり、板書時間を削減させ、生徒たちの活動時間を確保したりすることができることで、生徒たちの幅広い知識の習得や効率的な学習の手助けになることが期待できる。

5　単元の目標

(1) 生活習慣病などの予防と回復について、理解することができるようにする。　〈知識及び技能〉

(2) 生活習慣病などの予防と回復に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。　〈思考力、判断力、表現力等〉

(3) 生活習慣病などの予防と回復についての課題解決に向けた学習に、主体的に取り組もうとすることができるようにする。　〈学びに向かう力、人間性等〉

6　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣病のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 ② がんの回復において、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③ がんのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ④ がんの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	① がんの予防と回復について、それに関わる事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見するとともに、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ② がんの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、資料に記述したりして、筋道を立てて説明している。	① がんの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。

7　単元の指導と評価の計画（全４時間）本時：○印

時間	学習のねらい・学習活動	知識	思判表	態度	評価方法
1	Ⅰ　ねらい ・がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣病のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。 Ⅱ　学習活動 1　日本人の死因について振り返りを行う。 2　がんの発生についての説明を聞き、がんの種類と５年生存率等の資料等からワークシートにまとめる。 3　がんの治療方法についての説明を聞き、ワークシートにまとめる。 4　本時の学習を振り返り、次時の学びの見通しについて整理する。 主たる学習内容（知識） ・がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣病のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあること。 Ⅲ　指導すべき内容 ・誰にでもがんに罹る可能性があり、確かな知識と対応策から、より正確な予防をしていくことが大切であること。	①			観察 ワークシート
2	Ⅰ　ねらい ・がんの回復において、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて、理解できるようにする。 ・がんの予防と回復について、それに関わる事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見するとともに、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理できるようにする。 Ⅱ　学習活動 1　前時の学習を振り返る。 2　がんの予防、がん検診、治療と仕事の両立についてグラフや資料から読み取るとともに、話合いを通して理解を深める。 3　養護教諭からの説明を聞き、がんの現状と検診の大切さを通して自他の健康のために、どのようにがんと向き合いながら生活していくべきか考える。 4　本時の学習を振り返り、次時の学びの見通しについて整理する。 主たる学習内容（知識） ・がんの回復において、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であること。 Ⅲ　指導すべき内容 ・日頃の生活習慣を見直すとともに、生活習慣の中で、がんに罹る原因となるものは何かを理解し、判断すること。 ・定期的に健康診断やがん検診、ちょっとした身体の変化から、がんを早期発見して、早期治療に繋げ、治す可能性を高めること。	②	①		観察 ワークシート

③	Ⅰ ねらい ・がんのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解できるようにする。 ・がんの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。 Ⅱ 学習活動 1 がんの基本的知識の定着を図る小テストを実施する。 2 1、2時間目の授業を経て得た知識や情報をもとに、授業者の教諭に対して、どのようにしたら、がんから健康を守りより豊かな生活を送ることができるか説得できるようなプレゼンテーション資料を作成する。 3 資料作成に当たり、教科書や資料、インターネットを活用し、情報を収集する。 4 本時の学習を振り返り、次時の発表の見通しについて整理、イメージして次授業時に向けて準備する。 主たる学習内容（知識） ・がんのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であること。 Ⅲ 指導すべき内容 ・作成物は、模造紙での掲示物やGoogleスライド・PowerPoint等を活用したICT教材、CM等から自ら選択すること。 ・同じテーマごとグループ分けして進めること。 ・インターネットの情報を使用する場合は、二つ以上の根拠ある情報を活用する。また、資料にまとめる際は、≪引用文献、参考文献≫等明記すること。	③		①	観察 GoogleForm 小テスト ワークシート
4	Ⅰ ねらい ・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解できるようにする。 ・がんの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、資料に記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。 Ⅱ 学習活動 1 プレゼンテーションに向けた最終準備を短時間で行う。 2 グループを作り、1人ずつプレゼンテーションを行う。 3 オーディエンスは、プゼンターが振り返りをできるように評価シートを作成する。 主たる学習内容（知識） ・がんの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であること。 Ⅲ 指導すべき内容 ・違うテーマや違う視点から資料を作成した生徒でグループを組むこと。 ・自分や同じテーマで考えた生徒との間では獲得できなかった知識や情報を得ることができ、多様な視点や観点から、がんについて一人一人が考える時間にすること。	④	②		観察 ワークシート

8　本時の学習と指導（3/4時）

（1）ねらい

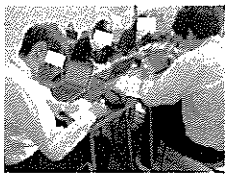
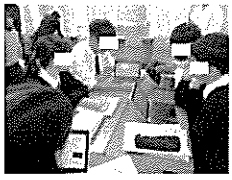
・がんのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解できるようにする。〈知識及び技能〉

・がんの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとすることができるようにする。〈学びに向かう力、人間性等〉

（2）準備物…現代高等保健体育（教科書、ノート）、タブレット端末、スマートフォン、授業プリント
模造紙、カラーペン、クレヨン

（3）展開

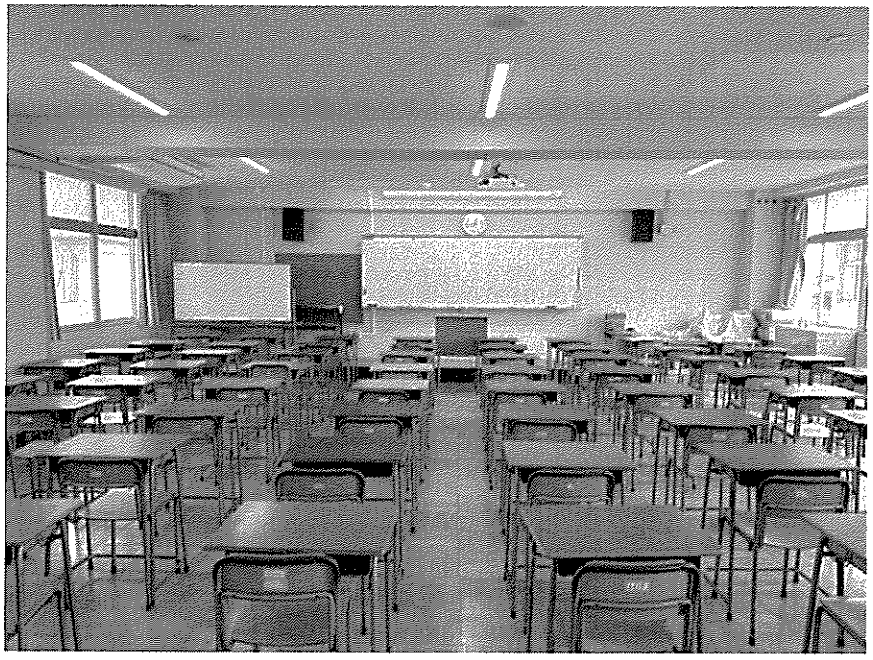
時間	学習内容・活動	学習形態	指導上の留意点　（○指導　◆評価規準）
導入 7分	1　挨拶	全体	○流れの挨拶になるのではなく、心を込めて挨拶できるように言葉かけを行う。
	2　がんの小テストに取り組む。(3分) ・がんについての小テストを行い、前回までの授業内容の知識の定着を図る。 ・問題を解き終えたら、提出し、解説シートを参考にして復習する。	全体	○学習に向かう環境を整えることができるように言葉かけを行う。 ○2時間目の終了時に教科書やプリントを振り返っておくように促す。 ○テスト後、知識が定着できるようにプリントや教科書等を使って見直しするように促す。
	≪予想される生徒の反応≫ ・小テストの画面を開くことができない生徒がいる。 ・考え込まずに、スラスラと解く。 ・思い出しながら、解く。 ・時間に余裕を持って解き終わる。 ・時間内に終わらない。 ・GoogleForm を開くことが難しい。		◆ がんのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解することができる。 （観察・GoogleForm 小テスト）【知識・技能③】
			△「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て ・誤答に対しての復習シートを準備し、復習を促す。 ・復習シートの内容で理解できない場合、個別で説明したり、補習等を設定する。 ◎「十分満足できる」状況(A)と判断される生徒の具体的な姿 ・10問中8問以上、正解している。
	3　本時の課題を確認する。	全体	○学習課題を確認し、本時の見通しが持てるようにする。
	【学習課題】がんのリスクを軽減し予防するためには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、自ら選択し、考えをまとめ、理解できるようにする。〈知識及び技能〉		

展開 1 5 分	4　プレゼンテーション資料作りに向けた説明及びグループ分け ・「がんから命を守れ」をテーマにプレゼンテーション資料を作成する。 ・対象となる人物の命をがんから守れるように、様々な視点から考える。 ≪予想される生徒の反応≫ ・これまでの学習プリントを見返す。 ・友人や周囲の人と、テーマについて相談する。 ・友人や周囲の人と、まとめ方について相談する。	全体	○がんから命を守るためにどのように生活したら良いのか考えられるように言葉かけを行う。 ○テーマに対して、どうアプローチしたら良いか、考えやすいように対象者のプロフィールや小テーマを挙げる。 ○プレゼンテーション資料作成方法は、以下の方法を提示する。 ・タブレット端末で Google スライドや PowerPoint でスライドを作成。 ・タブレット端末で 30 秒～ 1 分の CM を作成。 ・模造紙にペンやクレヨンを使い、資料を作成。 ○小テーマ別で班を作り、資料を作成する。 《例》・がんと食事　・がんと運動　・遺伝とがん ・がんと生活習慣　・がんと検診
展開 2 40 分	5 アクティブラーニング課題/小発表 「がんから命を守れ～(小テーマ記入)～」 ・がんについて学習したことを教科書や授業プリントを参考にしながら、プレゼンテーション資料を作成する。 ・タブレット端末やスマートフォンを用いて、インターネットを活用して、がんについての情報を収集する。 ・今日調べたこと、まとめたこと、発表の方向性を１人９０秒で発表する。 ≪予想される生徒の反応≫ ・自ら小テーマを決めることができ、資料作成をスムーズに進める。 ・自ら小テーマを設定することが難しく考え込んでしまう。 ・教科書や授業プリントから、がんについての情報を収集する。 ・インターネットを活用して、がんについての情報を収集する。 ・書籍よりもインターネットを利用する生徒の方が多い。 ・同小グループ内で、相談し合う。 ・得られた情報をもとに、プレゼンテーション資料を作成する。 ・話し合い、順番を決め、小発表に取り組む。資料作成の流れや資料のポイントを説明する。  	個人 グループ	○教科書やこれまでの授業内容を踏まえるように言葉かけを行う。 ○インターネットからの情報収集の場合、複数の情報を得て、信憑性の高さを判断しながら活用するように言葉かけを行う。 ◆がんの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。　（観察・プレゼンテーション資料） 【主体的に学習に取り組む態度】 △「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て ・小テーマを設定できずに迷っている生徒がいたら、その生徒が持つイメージを聞き、考えやすそうなテーマを設定する。 ・教員が意見を求めたり、理由を尋ねたりすることに対する反応で、その一部を評価する。 ◎「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒の具体的な姿 ・自ら進んでプレゼンテーション資料の作成に取り組んでいる。 ・情報収集を行う際、自分で判断して正確な情報を収集している。 ・異なる立場の意見と触れながら、自分の考えに修正を加えるために、資料や情報、仲間の考えから適切な根拠を得ようとしている。 ・仲間との話し合いを通して、再度、根拠を調べ直すなどして、自分の考えを改善しようとしている。

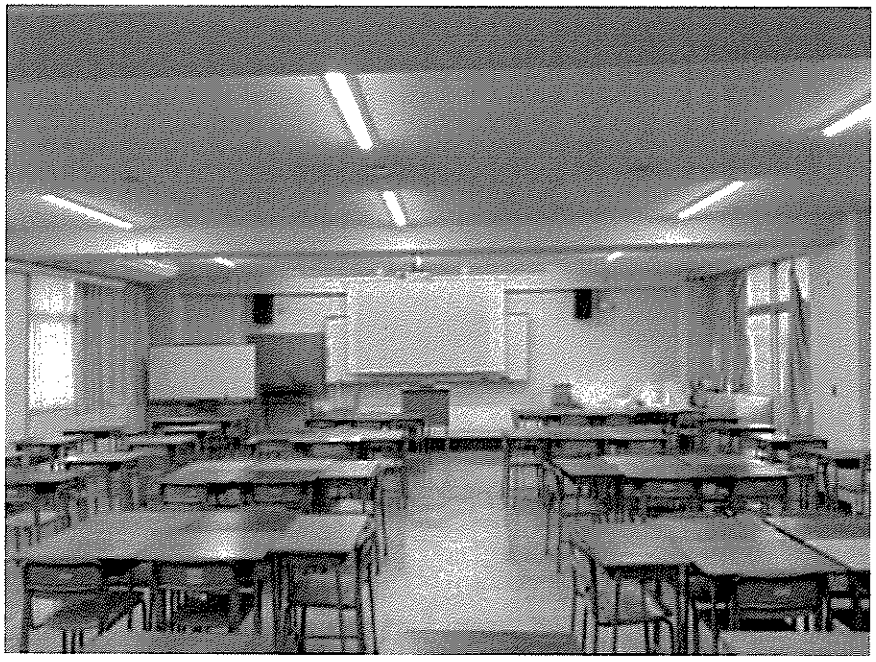
整理 3 分	6　本時のまとめ、次回発表準備のアナウンスを行う。 7　挨拶	全体	○次回、見通しを持ち、スムーズにグルーピングや発表ができるように、説明を行う。 ○流れの挨拶になるのではなく、心を込めて挨拶ができるように言葉かけを行う。

9　教室配置

≪小テスト机配置・大講義室～最前列左から出席番号順５列～≫



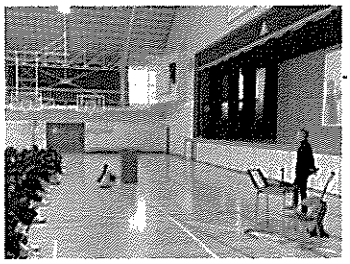
≪アクティブラーニング机配置・大講義室～２時間目終了前にアンケートを取りグループ決定～≫



10　外部講師の活用

事後学習として、特別活動（ホームルーム活動）の時間に外部講師による講話を行った。

（1）期日　　令和７年１月９日（木）



（2）対象　　第１学年生徒、第３学年医療系大学等進学希望生徒

（3）講師　　埼玉医科大学総合医療センター
緩和医療科　教授　儀賀　理暁　氏

（4）内容　　がんの実態について、がん治療について、緩和ケアについて
がん教育を通して「生きる意義」と「生きる価値」を高めることができる講話を行なっていただきました。

11　参考・引用文献

「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　保健体育編（文部科学省）」
「現代高等保健体育(大衆館書店)」
「現代高等保健体育指導ノート保健編　現代社会と健康（大衆館書店)」
「埼玉県がん教育総合支援事業実施報告書（埼玉県教育委員会)」
「なるほど！保健の授業づくり-令和４年度発行-（埼玉県学校保健会　埼玉県教育委員会)」
「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料【高等学校　保健体育】」
「学校健康教育必携（埼玉県教育委員会)」

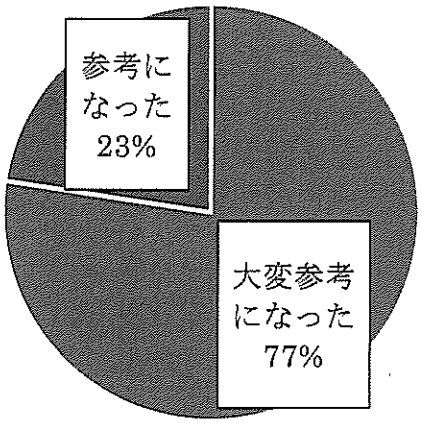
令和６年度がん教育授業研究会（県立杉戸高等学校）アンケート結果

【本日の授業研究会の内容について】参加者総数４６名（一般 32、来賓・会場校等 14）

	大変参考になった	参考になった	どちらでもない	参考にならなかった
一般参加者（提出３１名）	２４	7	0	0

※一般参加者３２名の内訳：教諭１０、養護教諭３、外部講師関係者１、学生１８

高等学校授業研究会



○授業研究会（公開授業・研究協議等）について　※一部抜粋

・がんの単元は生徒にとって実感の湧きづらいところであると思う。自分自身も授業を行った中で、より身近に考えられるようにする為の工夫が難しかった。大塚先生の公開授業では、生徒個人でテーマを決めて発表する内容で、身近な大塚先生をがんから守るという設定が生徒の活動をより良いものとしていたと学びました。（高等学校・教諭）

・ICT の活用、アクティブラーニングの円滑な運用、教員声かけ、時間配分や分かりやすいスライドによる説明など、無駄のない授業展開で大変勉強になりました。（高等学校・教諭）

・大塚教諭の授業はもちろんのこと、七木田先生の講義が聞けて勉強になった。問いかけによって学びが違ってくる。どう問いかけしていくか、大変難しい。まだまだ学ぶことが多いです。（高等学校・養護教諭）

・なかなか身近に感じられないことではあるが、先生をテーマにして授業を行っていたことが生徒にとってはやりやすく考えやすいものだと思いました。自分の勤めている学校だったらどうか？というのを考えることができ、とても参考になりました。（高等学校・教諭）

・生徒が主体的に取り組むことができていたのは、ここまでのていねいな授業があったからだと思います。生徒の実態が違い、授業の進め方等も全然違う授業を見学させていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。（高等学校・教諭）

・ICT 活用事例を知ることができて良かった。最初の小テストは生徒の知識定着にもつながり、採点、分析が簡単にできて良いと思った。自分たちでスライド作成をさせてみたいと思った。（高等学校・教諭）

・保健の授業でのがん教育は、範囲が狭く、深く掘り下げて取り組むことが少ないことが多い。その中で本日の授業展開などを見させていただいた指導の方法等、参考になりました。最後にお話いただいた助言が非常に分かりやすく、学びとなりました。ありがとうございました。（高等学校・教諭）
・ジグソー法を活用して、知識を習得するだけでなく、得た知識を目的に沿ってアウトプットさせている点が参考になった。（高等学校・教諭）
・がんという難しいテーマの中でも、自分で先生を救うための課題を選択し、調べている生徒の様子は大変素晴らしかった。やせすぎが良くないこと、今やっている健康診断が大切なこと、バランスの良い食事が大切なことなど、他の発表を聞き、自分の知識として身に付けている様子がよくわかった。（高等学校・養護教諭）
・「大塚先生の心を動かすスライド作り」は、対象が身近な存在になるため、積極的に取り組むことができるプロジェクトだと感じました。がんは「自分はならないだろう」という正常性バイアスや、高齢者が発症するものといった潜在意識がある生徒が多いため、自分事として捉えたり、身近に感じさせたりすることはとても重要だと学びました。（学生）
・授業のはじめに本時の流れについて可視化できるようにすることで、見通しをもって授業を受けることができると感じました。また、調べ学習を行う際に、それぞれテーマを決めておくことによって、一人ひとりがより深い内容まで調べることができたり、様々な視点で調べていくため、全体共有の際に、より理解が深まると思い、参考にさせていただきたいと感じました。（学生）
・高校での保健の授業を見学したのが初めてで、これまで小・中学校で見学した授業に比べて、個人で課題に取り組む力があることに驚いた。また、どのようにそれぞれの背景に配慮を行っていくべきか、課題の提示方法や活動方法はどう考えていくべきか、考えを深めることができました。（学生）
・がんを予防するための予防策を授業者の先生の生活を具体例に挙げることで、生徒もイメージしやすく、改善案を沢山挙げることができており、知識を身近な行動に落としこむことの大切さを学ぶことができた。研究協議でも様々な意見を聞き、考えるきっかけとなり、とても勉強になった。（学生）

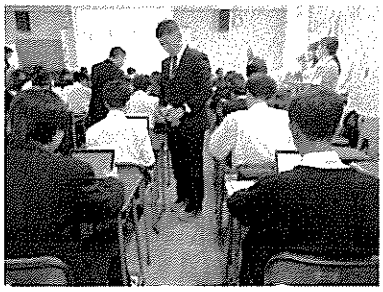
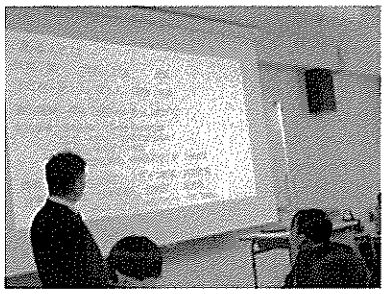
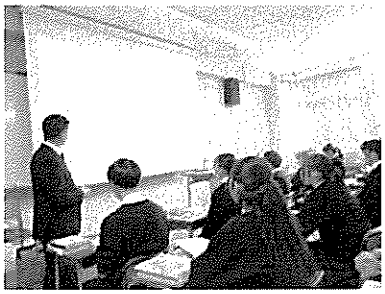
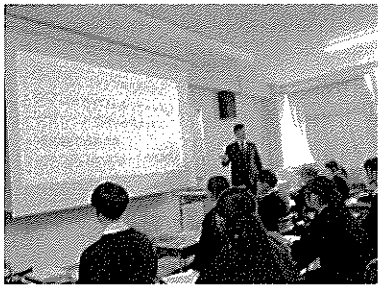
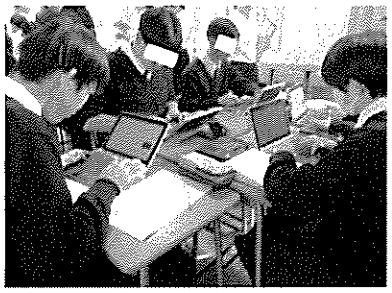
【学校と外部講師が連携した「がん教育」の実施状況】

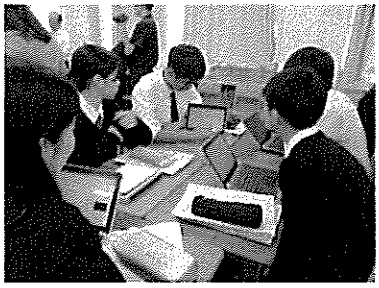
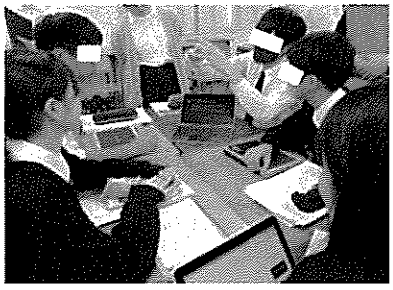
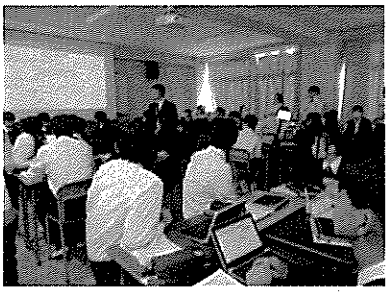
一般参加者の所属先による実践回答はありませんでしたが、「今後取り組みたい」と考えてくださった一般参加者が１６名いました。

【がん教育についての提案、意見、感想等】　※一部抜粋

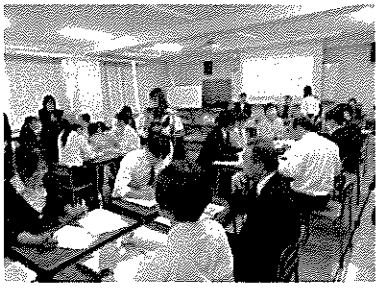
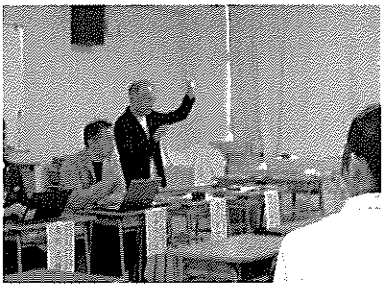
・先生が常に笑顔で授業をされていて、クラスの雰囲気がとてもいいなと思いました。（学生）
・がんは知らないことが多いと思うので、教師側も生徒側ももっとじっくり調べる時間があれば良いと思います。（学生）

【授業の様子】

【全体会・研究協議の様子】

Ⅳ　令和６年度　埼玉県がん教育推進連絡協議会

令和６年度埼玉県がん教育推進連絡協議会　設置要綱

（設置）

第１条　学校におけるがん教育の充実を図るため、「がん教育推進連絡協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（事業）

第２条　協議会は、次の各号に掲げる事業を所掌する。

(1) 埼玉県がん教育等外部講師連携支援事業を推進するための支援体制の協議、検討

(2) 埼玉県がん教育等外部講師連携支援事業を推進するために係るその他の取組

（組織）

第３条　協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

２　協議会に委員長を置き、埼玉県教育局県立学校部保健体育課長をもって充てる。

３　協議会に副委員長を置き、委員の中から互選する。

（運営）

第４条　委員長は、協議会を総括する。

２　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（任期）

第５条　委員の任期は、令和７年２月２８日までとする。

（会議）

第６条　委員長は、協議会を招集し、議長を務めるものとする。

２　委員長が必要と認めるときは、別表に掲げる者以外の県及び市町村等、関係機関の職員の出席を要請することができる。

（事務局）

第７条　協議会は、会務を処理するために、事務局を埼玉県教育局県立学校部保健体育課内に置く。

（経費）

第８条　協議会の経費は文部科学省から交付される委託経費をもって充てる。

（その他）

第９条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定めるものとする。

附　則

この要綱は、令和６年６月２８日から施行する。

別　表（第３条関係）　委員

学識経験者
医師
がん経験者
薬剤師
校長
養護教諭
疾病対策課副課長
保健体育課長

令和6年度　埼玉県がん教育等外部講師連携支援事業（がん教育推進計画）

（文部科学省委託　外部講師を活用したがん教育等現代的な課題理解増進事業）

背景

・平成28年12月に改正されたがん対策基本法第23条では、「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」というがんに関する教育の推進についての文言が新たに記載された。
・がん対策推進基本計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」ことを目標としている。
・学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の保健体育科において、がんについても取り扱うこととされたことを受け、現行の学習指導要領に対応したがん教育の実施について検討する必要がある。

・年間約３８万人以上の国民ががんで死亡している。
・埼玉県のがん検診受診率が　５０％未満である。

課題

・がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分
・教材や外部講師を活用した指導の在り方、方法等の充実が必要

そこで、

がん教育に関する計画を作成し、作成した計画に基づき、がん教育に関する多様な取組を実施することにより、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

がん教育推進連絡協議会

○ 学習指導要領に対応したがん教育に関する計画作成について指導・助言をする。
（・教科等、授業展開方法の検討　・外部講師の活用体制の整備　・関連機関との連携等）
○ 取組結果について、成果を検証する。
※がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会等へ配布するとともに、冊子のデータを県ホームページに掲載し、各学校がダウンロードして活用できるようにする。

【授業検討部会を含む構成員】
学校関係者（校長・教諭・養護教諭）、医療機関関係者（医師・薬剤師等）、学識経験者、がん経験者、行政関係者等

がん教育指導者研修会

○がん教育を推進していく教職員・外部講師を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方についての研修を行う。

がん教育授業研究会

○小学校、中学校及び高等学校において、授業公開による授業モデルの普及及び研究協議における効果的な指導方法についての検討を行う。

健康と命の大切さについて学ぶことを通して、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成する。
がんに対する正しい知識とがん患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深める。

令和６年度　埼玉県がん教育等外部講師連携支援事業　がん教育推進連絡協議会　委員名簿

	推薦団体･推薦関係課・教育委員会	氏　　名	職　名	所　　属
1	埼玉大学	七木田　文彦	准　教　授	埼玉大学教育学部
2	一般社団法人埼玉県医師会	登坂　英明	常　任　理　事	埼玉県医師会
3	がん専門医	儀賀　理暁	教　　授	埼玉医科大学総合医療センター
4	がん経験者	栗原　和江	代　表　理　事	ＮＰＯ法人くまがやピンクリボンの会
5	一般社団法人埼玉県病院薬剤師会	多田　幸子	課　　長	獨協医科大学埼玉医療センター
6	埼玉県公立小学校校長会	福島　みどり	校　　長	川越市立中央小学校
7	埼玉県中学校長会	大山　美智子	校　　長	白岡市立南中学校
8	埼玉県高等学校長協会	遠井　　学	校　　長	県立浦和東高等学校
9	埼玉県養護教諭会（小学校）	家入　夕貴	養　護　教　諭	所沢市立明峰小学校
10	埼玉県養護教諭会（中学校）	川嶋　紅音	養　護　教　諭	上尾市立大石中学校
11	埼玉県養護教諭会（高等学校）	工藤　由未	養　護　教　諭	県立蕨高等学校
12	埼玉県養護教諭会（特別支援学校）	津久井　未緒	養　護　教　諭	県立東松山特別支援学校
13	県保健医療部疾病対策課	河野　貴久	副　課　長	県保健医療部疾病対策課
14	県立学校部保健体育課	荻原　篤大	課　　長	県教育局県立学校部保健体育課

令和６年度　埼玉県がん教育等外部講師連携支援事業　がん教育授業検討部会　名簿

各校種における具体的ながん教育の授業を検討し、授業研究会を開催する。

	推薦団体･推薦関係課・教育委員会	氏　　名	職　名	所　　属
①	埼玉大学	七木田　文彦	准　教　授	埼玉大学教育学部
②	がん専門医	儀賀　理暁	教　　授	埼玉医科大学総合医療センター
③	埼玉県公立小学校校長会	福島　みどり	校　　長	川越市立中央小学校
④	埼玉県中学校長会	大山　美智子	校　　長	白岡市立南中学校
⑤	埼玉県高等学校長協会	遠井　　学	校　　長	県立浦和東高等学校
⑥	埼玉県小学校体育連盟	野口　晋平	教　　諭	坂戸市立浅羽野小学校
⑦	埼玉県中学校体育連盟	赤木　昂介	教　　諭	川口市立小谷場中学校
⑧	埼玉県高等学校保健体育研究会	佐々木　智子	教　　諭	県立三郷高等学校
⑨	埼玉県養護教諭会（小学校）	家入　夕貴	養　護　教　諭	所沢市立明峰小学校
⑩	埼玉県養護教諭会（中学校）	川嶋　紅音	養　護　教　諭	上尾市立大石中学校
⑪	埼玉県養護教諭会（高等学校）	工藤　由未	養　護　教　諭	県立蕨高等学校
⑫	埼玉県養護教諭会（特別支援学校）	津久井　未緒	養　護　教　諭	県立東松山特別支援学校
⑬	授業研究校代表（小学校）	三好　明日美	指　導　主　事	所沢市教育委員会保健給食課
⑭	授業研究校代表（中学校）	宮本　　翔	主幹兼指導主事	北本市教育委員会学校教育課
⑮	授業研究校代表（高等学校）	大塚　真澄	教　　諭	県立杉戸高等学校

事務局

1	事務局	薬師寺　將二	主任指導主事	県教育局県立学校部保健体育課
2	事務局	脇田　一亮	主　　幹	県教育局県立学校部保健体育課
3	事務局	龍野　雅美	指　導　主　事	県教育局県立学校部保健体育課
4	事務局	坂上　三四郎	指　導　主　事	県教育局県立学校部保健体育課

令和６年度埼玉県「がん教育等外部講師連携支援事業」実施報告書

埼玉県教育局県立学校部保健体育課

課　　長	荻原　篤大
教育指導幹	大松　武晴
主任指導主事	薬師寺將二
主　　幹	脇田　一亮
主　　査	平尾　勇樹
指導主事	龍野　雅美
指導主事	坂上三四郎
指導主事	髙沢　聖子
主　　事	金井　孝太

令和７年２月発行

さいたま市浦和区高砂３－１５－１
電話　０４８－８３０－６９６３